

2016
履修案内

横浜国立大学
経営学部

目 次

平成28（2016）年度学年暦

1 履修登録

（1）概要	1
（2）履修登録手順	2
（3）履修登録単位数の上限について	2
（4）履修登録に関する注意事項	2
（5）再履修登録に関する注意事項（昼間主コース）.....	3
（6）授業時間	3
（7）成績評価	5

2 昼間主コース

（1）卒業要件	7
① 卒業資格基準	
② 1単位当たりの授業時間	
③ 9月卒業について	
（2）教養教育科目	8
① 履修方法	
② 教養コア科目必修科目表	
③ 教養コア科目一覧表	
④ 基礎演習科目	
⑤ 外国語科目	
⑥ 健康スポーツ科目	
⑦ 外国人留学生のための授業科目	
（3）専門教育科目	21
① 履修方法	
② 専門教育科目一覧表	
③ 専門教育科目新旧対照表	
④ 分割科目「Ⅰ」の単位を修得済みであることを履修条件とする科目	
（4）ゼミナール	30
（5）卒業論文試験	30
（6）夜間主コースとの相互履修	32

3 夜間主コース

（1）卒業要件	33
① 卒業資格基準	
② 1単位当たりの授業時間	
③ 9月卒業について	

(2) 教養教育科目	34
① 必修科目	
② 夜間主教養科目一覧表	
③ 外国語科目	
(3) 専門教育科目	36
① 履修方法	
② 授業科目一覧	
③ 専門教育科目新旧対照表	
④ 分割科目「Ⅰ」の単位を修得済みであることを履修条件とする科目	
(4) ゼミナール	40
(5) 卒業論文試験	41
(6) 昼間主コースとの相互履修	41
 4 経営学部以外の授業科目の履修	
(1) 経済学部開講科目	43
(2) 理工学部及び教育人間科学部開講科目	44
(3) 地域交流科目	44
(4) 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目	44
(5) 横浜市内大学間単位互換制度（放送大学含む）.....	44
(6) YCCS特別プログラムによる開講科目	45
(7) 交換留学（派遣）制度	46
(8) その他	46
 5 キャリア教育	
(1) インターンシップ	47
(2) 副専攻プログラム ビジネス・プラクティス	48
 6 教育職員免許状	
(1) 必要な資格と単位	49
(2) 履修方法	49
(3) 教育実習	50
(4) 免許状授与申請	50
 7 学務関係諸手続き	
(1) 休学，退学，除籍	51
(2) 住所変更等の届け出	52
(3) 学生証の携帯	52
(4) 在学中の証明書の発行	52
(5) 卒業後の証明書の発行	53
(6) 社会科学系経営学務係窓口受付時間帯	54
(7) 緊急情報提供	54
(8) ゼミ室の使用	54





(9) 進路調査票の提出（4年次生）	54
(10) 住所・勤務等届の提出（夜間主コースのみ）	54
(11) 駐車許可証交付（夜間主コースのみ）	55
(12) 経営学部コンタクト教員制度（担任教員制度・2013年度以降入学生対象）	55
(13) 留学生支援制度	55
(14) その他	56
8 横浜国立大学経営学部規則	57
9 教員一覧	59
10 経営学部建物及び教室配置図	61

平成28（2016）年度学年暦授業日数調

（春 学 期）

	日	月	火	水	木	金	土	摘 要
4 月						1	2	春学期 4／1（金）～9／30（金）
	3	4	5	6	7	8	9	春季休業期間 4／1（金）～5（火）
	10	11	12	13	14	15	16	新入生・各学年オリエンテーション等
	17	18	19	20	21	22	23	4／1（金）～4（月）
	24	25	26	27	28	29	30	入学式 4／5（火）
								春学期開講 4／6（水）
5 月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
6 月				1	2	3	4	開学記念日 6／1（水）
	5	6	7	8	9	10	11	清陵祭 6／4（土）～6／5（日）
	12	13	14	15	16	17	18	※補講週間 6／13（月）～6／17（金）
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			
7 月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	※補講週間 7／4（月）～7／8（金）
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	春学期末試験期間 7／27（水）～8／3（水）
	31							（8／3（水）は試験予備日）
8 月		1	2	3	4	5	6	夏季休業期間 8／4（木）～9／30（金）
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
9 月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	秋季卒業式・修了式 9／16（金）
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		春学期終講 9／30（金）

【凡例】

-  授業の振替日
-  試験期間
-  試験日の予備日
-  英語統一テスト

(秋 学 期)

	日	月	火	水	木	金	土	摘 要
10月							1	秋学期 10／1（土）～3／31（金）
	2	3	4	5	6	7	8	秋学期開講 10／3（月）
	9	10	11	12	13	14	15	秋季入学式 10／6（木） 昼休み（予定）
	16	17	18	19	20	21	22	授業振替日 10／11（火） は月曜日授業
	23	24	25	26	27	28	29	常盤祭 10／28（金）～31（月）
	30	31						（10／28（金）は準備日）
11月			1	2	3	4	5	※補講週間 11／7（月）～11／11（金）
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30				
12月					1	2	3	※補講週間 12／5（月）～12／9（金）
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	授業振替日 12／27（火）は金曜日授業
								冬季休業期間 12／28（金）～1／5（木）
1月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	成人の式 1／9（月）
	15	16	17	18	19	20	21	大学入試センター試験休業日
	22	23	24	25	26	27	28	1／13（金）～15（日）
	29	30	31					
2月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	英語統一テスト試験日 2／6（月）
	12	13	14	15	16	17	18	秋学期末試験期間 2／7（火）～14（火）
	19	20	21	22	23	24	25	（2／14（火）は試験予備日）
	26	27	28					春季休業期間 2／15（水）～3／31（金）
								個別学力検査等試験日(前期日程)
3月				1	2	3	4	2／25（土）～26（日）
	5	6	7	8	9	10	11	個別学力検査等試験日(後期日程)
	12	13	14	15	16	17	18	3／12（日）～13（月）
	19	20	21	22	23	24	25	卒業式・修了式 3／24（金）（予定）
	26	27	28	29	30	31		秋学期終講 3／31（金）

平成 28 年度 学 年 暦

事 項	期 日 又 は 期 間	備 考
春 季 休 業 期 間	4 月 1 日 (金) ～ 4 月 5 日 (火)	
入 学 式	4 月 5 日 (火)	
春 学 期 開 講	4 月 6 日 (水)	※ 1
補 講 週 間	5 月 9 日 (月) ～ 5 月 13 日 (金)	※ 2
開 学 記 念 日	6 月 1 日 (水)	
清 陵 祭	6 月 4 日 (土) ～ 6 月 5 日 (日) (6 月 4 日 (土) は準備含む)	
補 講 週 間	6 月 13 日 (月) ～ 6 月 17 日 (金)	※ 2
補 講 週 間	7 月 4 日 (月) ～ 7 月 8 日 (金)	※ 2
春 学 期 末 試 験 期 間	7 月 27 日 (水) ～ 8 月 3 日 (水) (8 月 3 日 (水) は試験の予備日)	
夏 季 休 業 期 間	8 月 4 日 (木) ～ 9 月 30 日 (金)	
秋 季 卒 業 式・修了式	9 月 16 日 (金) 昼休み	(予定)
春 学 期 終 講	9 月 30 日 (金)	
秋 学 期 開 講	10 月 3 日 (月)	
秋 季 入 学 式	10 月 6 日 (木) 昼休み	
授 業 振 替 日	10 月 11 日 (火) は月曜日の授業を行う	
常 盤 祭	10 月 28 日 (金) ～ 10 月 31 日 (月) (10 月 28 日 (金) は準備日)	
補 講 週 間	11 月 7 日 (月) ～ 11 月 11 日 (金)	※ 2
補 講 週 間	12 月 5 日 (月) ～ 12 月 9 日 (金)	※ 2
授 業 振 替 日	12 月 27 日 (火) は金曜日の授業を行う	
冬 季 休 業 期 間	12 月 28 日 (水) ～ 1 月 5 日 (木)	
大学入試センター試験休業日	1 月 13 日 (金) ～ 1 月 15 日 (日)	
補 講 週 間	1 月 23 日 (月) ～ 1 月 27 日 (金)	※ 2
英 語 統 一 テ ス ト 試 験 日	2 月 6 日 (月)	
秋 学 期 末 試 験 期 間	2 月 7 日 (火) ～ 2 月 14 日 (火) (2 月 14 日 (火) は試験の予備日)	
春 季 休 業 期 間	2 月 15 日 (水) ～ 3 月 31 日 (金)	
個別学力検査等試験日(前期日程)	2 月 25 日 (土) ～ 2 月 26 日 (日)	
個別学力検査等試験日(後期日程)	3 月 12 日 (日) ～ 3 月 13 日 (月)	
卒 業 式・修了式	3 月 24 日 (金)	(予定)
秋 学 期 終 講	3 月 31 日 (金)	

※ 1 4 月 4 日 (月) までにオリエンテーション等を行い、4 月 6 日 (水) を春学期開講日とする。

※ 2 補講週間であっても通常授業は行う。補講は各日の第 6 限に実施するが、事情によりこの時間帯に実施し難い場合には、各部局の判断により別途日時を設定して補講を行なうものとする。

1 履修登録

(1) 概要

授業科目を履修するには、指定された期間内に学務情報システムで履修登録を行う必要があります。履修手続きを行わないと、授業科目試験の受験資格がありません。たとえ授業に出席し、試験を受けたとしても単位は与えられないので注意してください。

春学期オリエンテーションで配布される『教養教育履修案内』（※1年生のみ）、『経営学部履修案内』、『経営学部授業時間割表』及び学務情報システム上にあるシラバス（授業概要）を参照し、1年間の履修計画を立て、履修登録を行きましょう。これらの配布物は1人1冊しか配りませんので、1年間大切に保管してください。

登録期間・場所・相談窓口は以下の通りです。

期 間	春学期	2016年4月6日（水）から4月22日（金）ただし、土日除く 9:00～21:00 <u>ただし、最終日の終了時間は、17:00（夜間主は20:00）まで</u>
	秋学期	2016年10月3日（月）から10月19日（水）ただし、土日祝日除く 9:00～21:00 <u>ただし、最終日の終了時間は、17:00（夜間主は20:00）まで</u>
場 所	C棟3階PC教室（303室） （情報基盤センターのホームページからマトリックス認証サービスを利用して学外からの登録も可能）	
相談窓口	履修登録に関する質問・相談 社会科学系経営学務係（N3-4） 学務情報システムに関する質問・相談 学務部 教育企画課（S5-1）	

【注意事項】

- ① 学務情報システムのログインは、YNUユーザアカウントのIDとパスワードで行われます。
- ② 学内のパソコンからだけでなく、情報基盤センターホームページからマトリックス認証サービスを利用することで自宅のパソコンからも履修登録をすることができます。
- ③ 学務情報システム及びマトリックス認証サービスの利用方法の詳細については、オリエンテーションで配布される資料を参照してください。

【システムについて】

- ① 学生情報システム（<https://siss.jmk.ynu.ac.jp/WebInfo/p/LogIn.aspx>）
→休講、教室変更、補講、学生呼出、入学科・授業料免除選考結果、就職、お知らせ等
- ② 学務情報システム（https://risyu.jmk.ynu.ac.jp/gakumu_portal/login.aspx）
→履修登録、成績参照、学習記録、ポートフォリオ等
- ③ 授業支援システム（<https://lms.ynu.ac.jp/lms/lginLgir/>）
→授業資料配布、レポート課題回収等

※授業支援システムで利用仮登録をただけでは、授業科目の履修はできません。必ず学務情報システムで履修登録を行ってください。

(2) 履修登録手順

以下の手順で履修登録を行ってください。

- ① 履修計画を立てる。
- ② 履修登録に関する質問や相談がある場合は、事前に社会科学系経営学務係で確認する。
- ③ 履修登録期間中に学務情報システムで履修登録を行う。なお、期間内の訂正は何度でもできます。
- ④ 学務情報システムの履修時間割表で自身が立てた履修計画と照合し、訂正がある場合は、訂正期間内に学務情報システムで訂正する。
- ⑤ 履修登録確認の手続は、登録エラーがなくなるまで行う。

(3) 履修登録単位数の上限について

【2011年度以降入学者適用】

経営学部では、履修科目の過剰登録を防ぎ、授業時間外学修の充実を図るため、履修登録できる単位数に上限を設定しています。修学目標に沿った履修計画を立てた上で履修登録を行って下さい。

- ・履修登録できる単位数の上限は、「半期24単位」です。ただし、成績優良者（直前半期のGPA3.0以上の者）については、上限を緩和し、28単位まで履修登録することができます。
- ・そのうち、教養教育科目を履修登録できる単位数の上限は「半期20単位」です。ただし、YCCS特別プログラムにより教養教育科目として開講されている科目（P45の(6)①参照）を履修登録する場合は、上限を「半期24単位」（当該場合に限っては、全体の上限を「半期28単位」まで緩和）とします。履修希望者は経営学務係の窓口に応し出してください。
- ・履修上限の対象には、学部必修科目（専門教育科目）、ゼミナール、集中科目（専門教育科目）、インターンシップ、教職科目、国際交流科目及び国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目、理工学部及び教育人間科学部開講科目（専門科目）は含まれません。

※派遣留学等、部局長がやむを得ない理由があると認めた場合

社会科学系経営学務係に申請し、「通年48単位」以下で春学期・秋学期間の調整を行うことができます。そのうち、教養教育科目については上記「半期20単位」の上限が「半期24単位」に緩和されます。（短期派遣留学決定者及び同留学後の学生については、出発年度と帰国年度に限る。）経営学務係に応し出してください。

(4) 履修登録に関する注意事項

履修登録は、春学期登録期間に春学期開講科目と通年開講科目、秋学期登録期間に秋学期開講科目を登録してください。履修登録をしていない科目は受講できず、試験を受けたとしても単位は与えられません。エラーの残っている科目も同様です。また、健康スポーツ科目や外国語科目等の一部の科目を除いて、既に単位を修得した授業科目を再履修登録することや、同一時限に複数の授業科目を履修登録すること（重複登録）はできません。

キャンセル期間を過ぎてしまうと履修のキャンセルは出来ません。たとえ当該科目を受講しなかったとしても評価は「不可」となり、GPAの計算上不利となりますので注意してください。

クラス指定のある授業科目は、指定されたクラス分けに従って履修登録してください。また、受講制限・受講調整を行う科目では「受講者名簿」に記載がない学生はそれらの科目を履修登録できません。

なお、短期派遣留学決定者及び同留学後の学生に限り、履修登録期間外の履修登録を認める場合があります（出発年度と帰国年度に限る。また、授業担当教員の十分な履修指導を受けることが出来る場合に限る）。詳細は経営学務係で確認してください。

履修登録の訂正、履修科目のキャンセルの日程は次のとおりです。

履修確認・訂正期間	【春学期】 5月6日（金）～5月10日（火）ただし、土日を除く 【秋学期】 10月24日（月）～10月26日（水） 9:00～21:00 <u>ただし、最終日の終了時間は17:00（夜間主は20:00）まで</u>
履修登録のキャンセル期間	【春学期】 5月16日（月）～5月20日（金） 【秋学期】 11月7日（月）～11月11日（金） 9:00～21:00 <u>ただし、最終日の終了時間は17:00（夜間主は20:00）まで</u>

- ① 履修登録の確認は、各自忘れずに学務情報システムで行ってください。
- ② 履修登録した内容を確認し、「登録した内容と異なっている場合」及び「重複登録などの登録エラーがあった場合」は、上記の期間中に学務情報システムで訂正を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、社会科学系経営学務係へ申し出てください。
- ③ 履修登録完了後に取りやめたい科目が発生した場合は、上記期間中に必ず手続きをしてください。
- ④ 登録エラーの授業科目がある場合には、キャンセル期間に学務情報システム上で「履修科目のキャンセル」を行うことができません。キャンセルする場合には、上記期間中に経営学務係に申し出てください。
- ⑤ 登録エラーが発生した授業科目があるにも関わらず、上記期間内に「履修登録の訂正」及び「履修科目のキャンセル」の手続きを行わなかった場合、当該科目は履修することはできません。

（５）再履修登録に関する注意事項（昼間主コース）

外国語科目、健康スポーツ科目及び特殊講義（専門科目）を再履修する場合は、科目により履修方法が異なるので、十分注意してください。

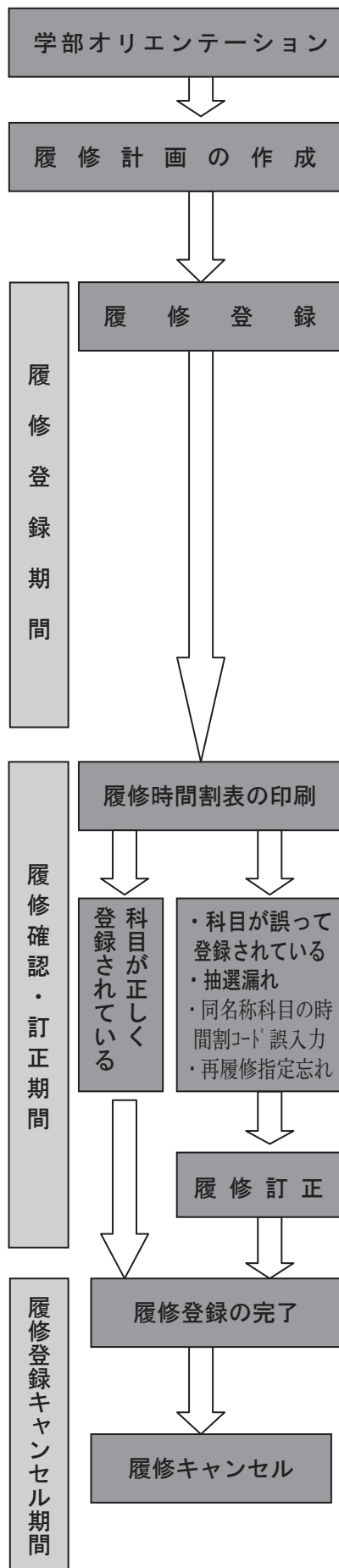
特殊講義（28ページ f）の再履修者は、同一名称の特殊講義が開講されている場合は、その科目を履修してください。同一名称の特殊講義が廃止となった場合は、特殊講義（28ページ f）の中から一科目を選択し再履修してください。

（６）授業時間

時限	時間帯	備考
1	8:50 ～ 10:20	昼間時間帯
2	10:30 ～ 12:00	
3	13:00 ～ 14:30	
4	14:40 ～ 16:10	
5	16:15 ～ 17:45	昼夜相互時間帯【注１】
6	17:50 ～ 19:20	夜間時間帯
7	19:25 ～ 20:55	

【注１】 5時限に開講される授業科目のうち、昼夜両コースで開設されている同一名称の授業科目についてのみ「昼夜同時開講科目」に該当し、夜間主コース所属の学生は夜間主開講の科目として履修することができます。（昼夜同時開講科目の一覧は32ページ、42ページ参照）

【学部学生の履修登録の手順】



履修登録に必要な資料を受け取ります。(履修案内、時間割表など)

履修案内、WEB シラバス、時間割表で履修方法・履修条件等を確認し、自分自身が履修する授業科目の時間割表を作成してください。

初回の授業で抽選による履修人数制限を行う科目もありますので注意してください。

学期ごとの履修登録対象科目は次のとおりです。

春 学 期	秋 学 期
<ul style="list-style-type: none"> ・ 春学期及び通年開講科目 ・ 春学期に開講する集中科目 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋学期開講科目(通年開講科目は春学期が履修登録時期なので登録できません) ・ 秋学期に開講する集中科目

履修登録は、以下の期間内に学務情報システムで行ってください。

春 学 期	秋 学 期
4月6日(水)～4月22日(金) 〔土日祝日は除く〕	10月3日(月)～10月19日(水) 〔土日祝日は除く〕

学務情報システムの利用時間は9時～21時です。ただし、最終日は17時(経営学部夜間主は20時)までです。なお、学部指定パソコン教室の開放時間による制約がありますので、掲示等で教室の利用時間を確認してください。

学務情報システムから各自で履修時間割表を印刷してください。

履修計画どおりに履修登録されているか必ず確認してください。

春 学 期	秋 学 期
5月6日(金)～5月10日(火) 〔土日祝日は除く〕	10月24日(月)～10月26日(水)

エラー科目は履修登録されていません。確認・訂正をしないでそのままにしておくと、その科目は単位認定の対象にはなりませんので注意してください。

確認の結果、履修計画どおりに登録できなかった、受講調整により履修不許可になった、エラー科目がある場合等は、上記の期間内に学務情報システムで履修訂正を行ってください。履修訂正は、履修登録期間内に履修登録した者しか手続できません。

学務情報システムの利用時間は、履修登録期間と同じです。

履修登録完了後に履修を取りやめたい科目が出た場合は、以下の期間内に学務情報システムで履修キャンセルを行ってください。履修キャンセル以外の追加・訂正はできません。

春 学 期	後 学 期
5月16日(月)～5月20日(金)	11月7日(月)～11月11日(金)

学務情報システムの利用時間は、履修登録期間と同じです。

(7) 成績評価

授業科目の成績は、試験またはレポートの結果、出席状況、通常の授業における学習態度等を総合して判定します。

① 評価方法

a. 試験

対 象 者	履修を登録し、かつ授業回数の2分の1以上出席した者。
試験実施時期	原則として学期末。ただし、担当教員が必要と認める場合は、学期中に行うことがあります。
受験上の注意	学生証の掲示がない学生は受験できません。学生証は試験期間中に限らず常に携帯し、紛失した場合は早急に再発行申請してください。(窓口：学務部 教育企画課)。再発行までに要する日数は1週間です。 ※試験日程その他詳細については掲示により別途通知します。
不正行為を行った場合の措置	不正行為を行った場合は、その学期にかかわるすべての履修登録科目の単位を没収するとともに、2ヶ月以上の停学処分とします。 ※停学処分開始時期は原則として学期の初めとし、停学処分期間中の履修登録は認めません。

b. レポート

レポートの提出先、提出要領及び提出期限等については、学生用掲示板の掲示あるいは担当教員の指示に従ってください。なお、提出期限を過ぎてから社会科学系経営学務係窓口へ提出しようとしても受理することはできないので注意してください。(54ページ：(6) ②「提出物（レポート等）の提出時間帯」を参照)。

c. 追試験

次に該当する事由により、学期末試験期間内に行われた科目を受験できなかった場合には、当該科目について追試験の申請をすることができます。

申 請 事 由	必 要 書 類
本人の疾病又は負傷	医師の診断書
両親又は同居の親族の死亡	事実を確認・証明できる書類
交通機関の著しい遅延・運休	
その他、部局長がやむを得ない理由があると認めたとき	

申請する際は、学期末試験期間最終日の翌日17時（休日の場合にはその翌日）までに社会科学系経営学務係まで申し出てください。本人が直接窓口申請できない場合には、代理人や電子メールによる申請も可能です。詳細は経営学務係まで問い合わせてください。国際交流科目のみ申請窓口が国際教育センター内留学交流係となりますので、注意してください。

② 成績評価

成績評価は、シラバスに示す評価の重み付けを加味した到達度評価とし、秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、及び不可（59点以下）の5段階で標記します。「可」以上の成績を修得した者に、所定の単位を与えます。なお、秀、優の成績評価基準は以下の通りです。

秀は履修目標を十分達成しており、さらに履修目標を上回る成績をおさめていること。

優は履修目標を十分達成しており、「秀」につぐ優秀な成績をおさめていること。

また、それぞれの科目の評価にGP（Grade Point）を与え、学期ごとに学生の個々の履修科目のGPにその科目の単位数を掛け、その総和を履修登録科目の総単位数で割ってGPA（Grade Point Average）を算出します。

$$\text{GPA} = \frac{\text{各科目の(GP} \times \text{単位数)の総和}}{\text{履修登録単位数}}$$

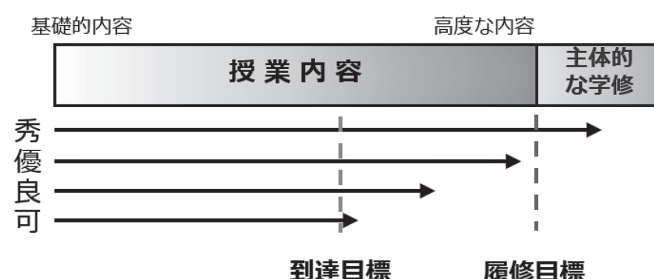
成績とGPAの関係を示すと、以下の通りです。

成績	Grade Point	評価点	基 準
秀	4, 5	100 — 90 点	履修目標を越えたレベルを達成している
優	4	89 — 80 点	履修目標を達成している
良	3	79 — 70 点	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
可	2	69 — 60 点	到達目標を越えたレベルを達成している
不可	0	59点以下	到達目標を達成できていない

履修目標：授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。

到達目標：授業を履修した人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修が必要としている段階です。

※履修目標、到達目標と成績グレードとの関係



GPAは卒業論文提出資格要件（卒業論文試験を受験する年度初めの時点で通算GPAが2.0以上）及び卒業要件（卒業認定の時点で通算GPAが2.0以上）となりますので、十分に注意してください。卒業論文提出要件については、P30, P41, 卒業要件については、P7, P33で確認してください。

成績評価のうち、「不可」については、同一科目の再履修を認めます。再履修を行った場合は、再履修後の成績が採用されます。また、再履修の場合はGPAの分母（履修登録単位数）は増えません。履修キャンセル期間を過ぎて、履修または試験を放棄した場合は「不可」となり、その科目のGPは0となるので、注意してください。

なお、以下の科目は卒業に必要な単位に算入しますが、GPAに算定しません。

入学前既修得単位として認定された科目
編入学による認定科目
横浜市内大学間単位互換制度（放送大学含む）によって修得した科目【注1】【注2】
短期派遣留学・休学中の留学による認定科目【注1】【注2】
国際交流科目【注1】【注3】
専門教育科目「インターンシップ」
大学院博士課程前期経営系科目【注1】

以下の科目は、卒業に必要な単位に算入せず、GPAにも算定しません。

教職に関する科目
理工学部及び教育人間科学部の専門教育科目
卒業資格外科目

【注1】卒業に必要な単位に算入できる単位数に上限があります。（43ページ：4 経営学部以外の授業科目の履修を参照）

【注2】単位認定されない場合もありますので、詳細は経営学務係までお問い合わせください。

【注3】国際交流科目の取扱について、詳細は45ページ（6）③ 国際交流科目をご確認ください。

③ 成績の確認

年2回（4月上旬・10月上旬）、それまでに履修登録した授業科目の成績を「個別成績表」として各自に通知します。この個別成績表は再発行できないので、卒業するまで大事に保管してください。各年度に渡された個別成績表（1年～4年次の成績）を自分自身で整理し、卒業資格を満たしているかどうか必ず確認してください。

また、個別成績表配布日から約1週間（4年生の卒業判定時については、別途期間を設定）を経営学部開講科目（教養教育科目含）の「成績確認期間」としています。直前半期の経営学部開講科目の成績に異議のある学生は、「履修科目成績確認願」を経営学務係に提出してください。「成績確認期間」終了後は、成績異議申し立て等、一切受け付けません。経営学部開講の教養教育科目については掲示で確認してください。他学部開講の科目については、開講学部の定めに従ってください。

成績訂正の対象となるのは、教員サイドの転記ミス並びに採点ミスのみであり、成績に関する嘆願等は一切受け付けません。

なお、「卒業者名簿」は、卒業判定会議（3月中旬）を経てから、学生用掲示板に掲示します（電話・メール等での照会には一切応じません）。

2 昼間主コース

(1) 卒業要件

- ① 経営学部にて4年以上在学していること
 - ② 卒業論文試験に合格すること
 - ③ 卒業資格基準表に定められた授業科目及び単位数を修得すること
 - ④ 卒業認定時に通算GPA（Grade Point Average）が2.0以上あること
- 以上を満たした者に対して卒業を認定し、「学士（経営学）」の学位を授与します。
- なお、GPAについては5ページを参照してください。

① 卒業資格基準

経営学部の卒業資格にかかわる授業科目は、教養教育科目（教養コア科目、基礎演習科目、外国語科目及び健康スポーツ科目）及び専門教育科目に区分します。以下の「卒業資格基準表」のとおり、授業科目区分ごとに卒業に必要な最低修得単位数が定められており、卒業までに、これらすべての条件を満たす必要があります。

卒業資格基準表

教養教育科目	教養 コア 目 ア	基礎科目〔人文社会系〕	4 単位以上	計 24単位以上
		基礎科目〔自然科学系〕【注 1】	4 単位以上	
		現代科目	2 単位以上	
		総合科目	2 単位以上	
	基礎演習科目（選択科目）【注 2】		2 単位	
	外国語科目	英語 英語以外の外国語（ 1 または 2 ケ国語）	8 単位 6 単位	
	健康スポーツ科目（選択科目）【注 3】		2 単位まで	
計			38単位以上	
専門教育科目	学部必修科目		6 単位	
	学科必修科目【注 4】		4～8 単位	
	選択必修科目【注 5】		8～12単位以上	
	法律関係授業科目		6 単位以上	
	ゼミナール【注 6】		8 単位	
	自由選択科目		－	
	計		76単位以上	
合 計【注 7】			128単位以上	

- 【注1】 基礎科目（自然科学系）に該当する必修科目があります。（〔教養コア科目必修科目表〕参照）。
- 【注2】 基礎演習は2単位の選択科目で2年次秋学期に開講します。2年次春学期に行われるゼミナール加入ガイダンスにて配布する「基礎演習・ゼミナールの手引き」を参考にして、履修してください。（基礎演習については15ページ参照）
- 【注3】 健康スポーツ科目の単位は2単位まで卒業に関わる単位数に算入します。2単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。
- 【注4】 所属の学科によって必修科目及び必要単位数が異なります。（〔専門教育科目履修基準表〕参照）
- 【注5】 所属の学科によって必要単位数が異なります。（〔専門教育科目履修基準表〕参照）
- 【注6】 ゼミナールに参加しない、または参加しても単位を修得出来なかった場合は、専門教育科目から単位を修得してください。（ゼミナールについては30ページ参照）
- 【注7】 合計128単位のうち、教養教育科目38単位及び専門教育科目76単位を除いた14単位分は、教養教育科目または専門教育科目のどちらから修得しても構いません。

② 1 単位当たりの授業時間

経営学部では、授業の方法に応じ、授業科目 1 単位当たりの授業時間を次の通り定めています。

講義（外国語科目を除く）、基礎演習及びゼミナール 15時間

外国語科目、実験、実習 30時間

講義、演習、実験、実習または実技のうち 2 つ以上の方法を併用する授業科目については、その組み合わせに応じ、別途時間数を定めます。なお、時間割上の 1 時限（90分）は、授業時間外の学修を含めて 2 時間として単位を計算します。外国語科目を除く講義科目、基礎演習及びゼミナールの場合、1 週間に 1 時限の授業であれば、15週で 2 単位になります。

③ 9 月卒業について

9 月卒業の要件は下記の通りです。9 月卒業をするためには申請が必要です。申請方法・期間等の詳細は掲示で確認してください。

＜9 月卒業の要件＞

以下の①～④全てを満たす者。（④については2007年度以降入学生のみ）

- ① 卒業認定の前年度までに卒業論文試験に合格していること
- ② 経営学部にて 4 年 6 ヶ月以上在学していること（休学、停学期間※等を除く）※停学期間が 3 ヶ月を超える場合
- ③ 卒業認定年度春学期において、卒業に必要な授業科目及び単位数を修得していること
- ④ 卒業認定時に通算 GPA（Grade Point Average）が 2.0 以上あること

（2）教養教育科目

① 履修方法

教養教育科目の履修方法に関しては、入学年度初めに配布される『教養教育履修案内』に従ってください。なお、教養教育科目の履修登録は半期 20 単位が登録の上限です。この上限を超えて履修登録することはできません（2 ページ（3）履修登録単位数の上限について参照）。

必修の教養コア科目の「微分積分Ⅰ」、「微分積分Ⅱ」、「線形代数Ⅰ」、「線形代数Ⅱ」について、学科によるクラス分けを実施します。英語科目については別にクラス編成をします。詳細は掲示にてお知らせしますので、各自確認してください。※経営学科、国際経営学科は必修ではない科目がありますが、履修する場合はクラス分けに従ってください。

② 教養コア科目必修科目表

教養教育科目・教養コア科目のうち、経営学部各学科で必修科目とするのは、以下の○印のある科目です。

	経営学科	会計・情報学科	経営システム科学科	国際経営学科
統計学Ⅰ－A	○	○	○	○
統計学Ⅱ－A				
微分積分Ⅰ	○	○	○	
微分積分Ⅱ				
線形代数Ⅰ		○	○	
線形代数Ⅱ				

③ 教養コア科目一覧表

a. 基礎科目：人文社会系（4単位以上）

授 業 科 目 名	単 位	期 間	対象学年	備 考
心理学A	2	半期	1～4	
心理学B	2	半期	1～4	
日本の近代文学	2	半期	1～4	
日本の言語	2	半期	1～4	
中国の古典文学	2	半期	1～4	
日本の古典文学	2	半期	1～4	
心理学史入門	2	半期	1～4	
障害と周辺領域 I	2	半期	1～4	
日本語を教えよう	2	半期	1～4	
日本近現代史	2	半期	1～4	
ヨーロッパ近現代史	2	半期	1～4	
地誌学概論	2	半期	1～4	
環境と倫理	2	半期	1～4	
鍵盤楽器の名曲	2	半期	1～4	
世界の音楽と文化	2	半期	1～4	
音楽と自然	2	半期	1～4	
民族音楽学入門	2	半期	1～4	
色彩論	2	半期	1～4	
水彩画基礎技術	2	半期	1～4	
美術の見かた	2	半期	1～4	
基礎造形A	2	半期	1～4	
学校組織マネジメント	2	半期	1～4	
現代社会論	2	半期	1～4	
社会生活と法	2	半期	1～4	
現代の経済A	2	半期	1～4	
現代の経済B	2	半期	1～4	
現代政治（国際）	2	半期	1～4	
現代政治（日本）	2	半期	1～4	
社会科学の方法	2	半期	1～4	
社会科学の歴史	2	半期	1～4	
社会科学概論A	2	半期	1～4	
社会科学概論B	2	半期	1～4	
法と人間	2	半期	1～4	
法学概論	2	半期	1～4	
日本国憲法	2	半期	1～4	【注1】
現代と法	2	半期	1～4	
映画論	2	半期	1～4	
現代芸術論	2	半期	1～4	
文化人類学の考え方	2	半期	1～4	
行政組織と公務員	2	半期	1～4	
アカデミック・リテラシー－YNU学びの羅針盤－	2	半期	1	
Elements of Linguistic Knowledge #1	2	半期	1～4	
Elements of Linguistic Knowledge #2	2	半期	1～4	
Arabic 1 language and its Culture	2	半期	1～4	
Business Japanese Language and Culture #2	2	半期	1～4	

授 業 科 目 名	単 位	期 間	対象学年	備 考
Business Japanese Language and Culture #3	2	半期	1～4	
Advertisement Art #1	2	半期	1～4	
Advertisement Art #2	2	半期	1～4	
Studio Workshop #1	2	半期	1～4	
Studio Workshop #2	2	半期	1～4	
Studio Workshop #3	2	半期	1～4	
Studio Workshop #4	2	半期	1～4	
Transcultural Understanding through English	2	半期	1～4	
Transcultural Understanding through English #2	2	半期	1～4	
Business Japanese Language and Culture #1	2	半期	1～4	
World Legal Systems	2	半期	2～4	

【注1】教員免許状取得希望者は、日本国憲法2単位を必修とします。

b. 基礎科目：自然科学系（4単位以上）

授 業 科 目 名	単 位	期 間	対象学年	備 考
生物学から見たヒト	2	半期	1～4	
生物地理学入門	2	半期	1～4	
進化と生物多様性	2	半期	1～4	
線形代数学入門	2	半期	1～4	
経済・経営のための基礎数学Ⅰ	2	半期	1～4	
経済・経営のための基礎数学Ⅱ	2	半期	1～4	
文系のための数学入門	2	半期	1～4	
実験で学ぶ物理学B	2	半期	1～4	
動力とエネルギー	2	半期	1～4	
環境化学概論	2	半期	1～4	
Webページ作成入門	2	半期	1～4	
身近な電気と機械	2	半期	1～4	
統計学Ⅰ－A	2	半期	1～4	【注2】
統計学Ⅱ－A	2	半期	1～4	【注2】
統計学Ⅰ－C	2	半期	2～4	
統計学Ⅱ－C	2	半期	2～4	
コンピューターで学ぶ統計学A	2	半期	1～4	
コンピューターで学ぶ統計学B	2	半期	1～4	
地球と惑星の科学	2	半期	1～4	
古生物の科学	2	半期	1～4	
生物の社会	2	半期	1～4	
応用地質学	2	半期	1～4	
化学の世界A（物質観としての化学）	2	半期	1～4	
化学の世界B（生活の化学）	2	半期	1～4	
化学の世界C（環境の化学）	2	半期	1～4	
化学の世界D（生命の化学）	2	半期	1～4	
情報科学	2	半期	1～4	
図形科学	2	半期	1～4	
名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩きA	1	半期	1～4	
名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩きB	1	半期	1～4	
数理科学Ⅰ	2	半期	1～4	
数理科学Ⅱ	2	半期	1～4	

授 業 科 目 名	単 位	期 間	対象学年	備 考
線形代数Ⅰ	2	半期	1～4	【注3】
線形代数Ⅱ	2	半期	1～4	【注3】
微分積分Ⅰ	2	半期	1～4	【注4】
微分積分Ⅱ	2	半期	1～4	【注4】
体験物理科学A	2	半期	1～4	
体験物理科学B	2	半期	1～4	
物理の世界A	2	半期	1～4	
物理の世界B	2	半期	1～4	
基礎から学ぶ化学	2	半期	1～4	
エネルギー工学序論	2	半期	1～4	
コンピュータシステムとコミュニケーション	2	半期	1～4	
理工学部生のための数理モデリング	2	半期	1～4	
先端機器分析入門	2	半期	1～4	
Modeling with Statistics	2	半期	1～4	
Modeling with Calculus and Algebra	2	半期	1～4	
Applicable Computing	2	半期	3～4	
Cyber Studies	2	半期	3～4	
ICT Literacy	2	半期	1～4	
ICT Project	2	半期	1～4	
Prospects of Mechanical Eng and Materials Sci	2	半期	1～4	
Prospects of Chemistry, Chemical Eng & Life Sci	2	半期	1～4	
Prospects of Arch, Infstr, Ocean Eng & Ecosystem Sci	2	半期	1～4	
Prospects of Maths, Phys, Elec, Eng & Comp Sci	2	半期	1～4	
Business Problem Solving Logics and Framework	2	半期	1～4	

【注2】 経営学部全学科の必修科目。

【注3】 会計・情報学科，経営システム科学科の必修科目。

【注4】 経営学科，会計・情報学科，経営システム科学科の必修科目。

c. 現代科目（2単位以上）

授 業 科 目 名	単 位	期 間	対象学年	備 考
教育学（教育と人間）	2	半期	1～4	
消費社会と共育	2	半期	1～4	
金融リテラシー入門	2	半期	1～4	
衣生活の科学	2	半期	1～4	
おいしさの科学	2	半期	1～4	
生涯発達論	2	半期	1～4	
職業と教育	2	半期	1～4	
人と動物の関係学	2	半期	1～4	
木材と人間	2	半期	1～4	
学外活動（教育ボランティア）	2	半期	1～4	
学校教育最前線	2	半期	1～4	
教育実践学入門	2	半期	1～4	
食環境論	2	半期	1～4	
地域連携と都市再生B（かながわ地域学）	2	半期	1～4	
現代の物流経営	2	半期	1～4	
現代の経営	2	半期	1～4	
材料学入門	2	半期	1～4	

授 業 科 目 名	単 位	期 間	対象学年	備 考
安全・環境と社会	2	半期	1～4	
生態工学	2	半期	1～4	
地球環境と情報	2	半期	1～4	
科学技術史	2	半期	1～4	
建築の環境と防災	2	半期	1～4	
地域連携と都市再生A（ヨコハマ地域学）	2	半期	1～4	
土木史と技術者倫理	2	半期	1～4	
応用気象学	2	半期	1～4	
海事技術史	2	半期	1～4	
エネルギーと環境	2	半期	1～4	
フラクタル	2	半期	1～4	
環境リスクとつきあう	2	半期	1～4	
情報と社会	2	半期	1～4	
情報ネットワークシステム入門	2	半期	1～4	
情報セキュリティ入門	2	半期	1～4	
プログラミングによる思考と表現の基礎	2	半期	1～4	
ICTナレッジマネジメント・コラボレーション	2	半期	1～4	
ビジネス・コミュニケーション	2	半期	1～4	
キャリア・ケーススタディ	2	半期	2～4	
Wake up! プロジェクト	2	半期	1	
まなび座Ⅰ・校友会リレートーク	2	半期	1	
まなび座Ⅱ・リーダーシップ実践	2	半期	2～4	
キャリアデザイン	2	半期	1～2	
グローバルビジネス・コミュニケーション	2	半期	2～4	
横浜学--地域の再発見--	2	半期	1～4	
経営者の役割と従業員の役割	2	半期	1～4	
研究開発論－大学・企業・イノベーション－	2	半期	2～4	
技術と経営:会社とは	2	半期	1～4	
アントレプレナー入門	2	半期	1～4	
実践新商品企画	2	半期	1～4	
地域課題実習Ⅰ	1	半期	1～4	
地域課題実習Ⅱ	1	半期	1～4	
Community Studies	2	半期	1～4	
Multicultural Practice	2	半期	1～4	
Life-Long Planning and Global Career Design	2	半期	1～4	
Business Problem Solving and Project Management	2	半期	2～4	
Multicultural Project #1	2	半期	1～4	
Multicultural Project #2	2	半期	1～4	
Plagiarism and its Regulations	2	半期	2～4	
Business Administration and its Operation	2	半期	2～4	
危機管理学	2	半期	1～4	
Business Management with Accounting and Finance	2	半期	2～4	
Safety and Crisis Management for Overseas TravelⅠA	1	半期	1～4	
Safety and Crisis Management for Overseas TravelⅡA	1	半期	1～4	
Safety and Crisis Management for Overseas TravelⅠB	2	半期	1～4	
Safety and Crisis Management for Overseas TravelⅡB	2	半期	1～4	
Instruction and Document Design #1	2	半期	3～4	

授 業 科 目 名	単 位	期 間	対象学年	備 考
Instruction and Document Design #2	2	半期	3～4	
Urban Dynamism of Yokohama	2	半期	1～4	
国際理解 日本語をめぐる国際交流史	2	半期	1～4	
国際理解 日韓比較文化論	2	半期	1～4	
国際理解 国際日本学入門	2	半期	1～4	
国際理解 国際交流における日本語の役割	2	半期	1～4	
国際理解 台湾の文化と社会	2	半期	1～4	
Leading and Teaching Internship #1	2	半期	3～4	
Leading and Teaching Internship #2	2	半期	3～4	
Business Planning and Intellectual Property	2	半期	2～4	
Facilitation and Empowerment for Team Building	2	半期	2～4	
Business Communication and Emotional Literacy	2	半期	2～4	
Business Logics and Team Consensus	2	半期	1～4	
ブラジル事情	2	半期	1～4	
ベトナム事情	2	半期	1～4	
インドネシア・マレーシア事情	1	半期	1～4	
パラグアイ事情	2	半期	1～4	

d. 総合科目（2単位以上）

「総合科目」は 春学期 1 科目，秋学期 1 科目，年間 2 科目のみ履修できます。

授 業 科 目 名	単 位	期 間	対象学年	備 考
技術と教育	2	半期	1～4	
人生90年のマネジメント	2	半期	1～4	
ことばのあれこれ	2	半期	1～4	
特別支援教育とインクルーシブ教育	2	半期	1～4	
経済学の諸課題Ⅰ	2	半期	1～4	
経済学の諸課題Ⅱ	2	半期	1～4	
経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	2	半期	1～4	
ベンチャーから学ぶマネジメント	2	半期	1～4	
機械工学と社会とのかかわり合い	2	半期	1～4	
物質工学と社会	2	半期	1～4	
都市と建築	2	半期	1～4	
土木工学と社会	2	半期	1～4	
海洋工学と社会	2	半期	1～4	
数理科学概論	2	半期	1～4	
物理工学概論	2	半期	1～4	
環境をめぐる諸問題	2	半期	1～4	
システム・エンジニアリング	2	半期	1～4	
Collaborative Studies #1	2	半期	1～4	
Collaborative Studies #2	2	半期	1～4	
Business Problem Solving by Team	2	半期	2～4	
Multicultural Team-works #1	2	半期	1～4	
Multicultural Team-works #2	2	半期	1～4	
ライフキャリアを考える	2	半期	1～4	

e. 重複履修できない授業科目【2 年次生以上】

次の表の「平成27年度開講授業科目」欄の授業科目に対し、右に掲げる授業科目を既に履修した者は、既にその科目を履修していることから重複履修できません。

平成28年度開講授業科目	既に履修した授業科目で重複履修できない授業科目
地誌学概論	地誌学A<教育人間科学部専門科目> (H24)
世界の音楽と文化	諸民族の音楽と文化 (H26)
図形科学	図学 I <理工学部専門基礎科目> (H27)
名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩きA	名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩き (H27)
名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩きB	
実験で学ぶ物理学A	実験で学ぶ物理学 (H25)
学校教育最前線 (現代科目)	学校教育最前線 (総合科目) (H25)
横浜学―地域の再発見― (現代科目)	横浜学―地域の再発見― (総合科目) (H26)
材料学入門	ものの強さと強さの仕組み (H22)
地域連携と都市再生 B (かながわ地域学)	地域連携と都市再生 B (H26)
地域連携と都市再生 A (ヨコハマ地域学)	地域連携と都市再生 A (H26)
キャリアデザイン	キャリアデザイン A (H27)
	キャリアデザイン B (H27)
物理工学概論	教養としての先端物理科学 (H22)
情報工学概論	電子情報工学と社会 (H22)
電子情報システム概論	
化学・生命情報処理演習	物工情報処理演習 (H22)
バイオ情報演習	
機械系の数学演習 I	数学演習 (H25)
機械系の数学演習 II	数学演習 (H25)
機械系の力学演習 II	力学演習 II (H25)
物理学演習	力学演習 II (H25)
化学・生命基礎演習 A	物工基礎演習 A (H22)
化学・生命基礎演習 B	物工基礎演習 B (H22)
都市基盤演習	土木工学基礎演習 (H21)
土木応用数学	土木基礎数学<工学部専門教育科目> (H23)
Arabic Language and its Culture	アラビア語とその文化 (国際交流科目) (H25)
	英語演習 (アラブの言語と文化) (H25)
	国際理解 3 (アラブの言語と文化) (H23)
Business Problem Solving by Team	Collaborative Studies #3 (H26)
Facilitation and Management with Emotional Intelligence	Facilitation and Management <教育人間科学部専門> (現代科目) (H26)
ICT Project	ICT応用 (人間文化基礎論 II B) (国際交流科目) (H25)
Modeling with Statistics	統計数理 (国際交流科目) (H25)
Facilitation and Empowerment for Team Building	Team Management and Facilitation (H27)
Transcultural Understanding through English	英語を使って日本語を教えよう (国際交流科目) (H25)
	英語演習 (英語を媒介語とした日本語の教え方) (H25)
	国際理解 7 (英語を媒介語とした日本語の教え方) (H23)
国際理解 日本語をめぐる国際交流史	国際理解12 (日本語をめぐる国際交流史) (H27)
国際理解 日韓比較文化論	国際理解 4 (日韓比較文化論) (H27)
国際理解 国際日本学入門	国際理解 6 (国際日本学入門) (H22)
国際理解 国際交流における日本語の役割	国際理解 1 (留学生支援入門) (H26)
	国際学 II C: 国際交流史<教育人間科学部専門教育科目> (H27)
国際理解 台湾の文化と社会	国際理解 4 (台湾の文化と社会) (H24)

④ 基礎演習科目

基礎演習科目は2年次秋学期に開講される選択科目で、3年次・4年次のゼミナールへのプレ・ゼミナールとなります。基礎演習に参加した学生は、原則同一教員のゼミナールに参加することになります。

a. 選考時期

2年次春学期

b. 単位数

教養教育科目として2単位。

c. 定員

各基礎演習とも10名程度（ただし、派遣留学決定者は定員外とすることができる）。

⑤ 外国語科目

卒業資格基準表に定められた単位数を修得してください。なお、卒業に必要な単位数を超えて単位を修得した場合は、外国語科目の単位数には算入せず、卒業に必要な教養教育科目の単位数に算入します。

a. 英語

経営学部学生は1年次に英語実習1を4科目4単位、2年次に英語実習2を2科目2単位、英語演習を1科目2単位、合計7科目8単位を修得してください。要件を満たしていれば、経済学部開講の「英語実習 Advanced」によって代替することも出来ます。（要件は次ページ参照）

科 目 名	単 位 数	履 修 年 次
英語実習 1 S	1	1 年次生以上
英語実習 1 W	1	
英語実習 1 LR春学期	1	
英語実習 1 LR秋学期	1	
英語実習 2 SW	1	2 年次生以上
英語実習 2 LR	1	
英語演習	2	2 年次生以上

ア. 英語実習 1（半期1単位）

LRを春学期・秋学期各1科目、SとWを春学期あるいは秋学期に各1科目履修します。以上の4科目4単位が全部揃って、英語実習1の履修が完了します。授業は原則としてレベル別にクラス指定を行います。掲示にてお知らせしますので確認してください。

※「英語実習1」は4単位を超えて履修することは出来ません。

※LR（春学期）の成績にかかわらず、LR（秋学期）を履修することができます。

※帰国生徒等で、入学時にTOEFL（CBT）213点、（PBT）550点以上、（iBT）79点以上、またはそれに相当するスコアを有する者は、経済学部開講の「英語実習Advanced」4科目4単位を「英語実習1」4単位と代替することができます。

イ. 英語実習 2（半期1単位）

SWとLRを春学期あるいは秋学期に各1単位履修します。以上の2科目2単位が揃って、英語実習2の履修が完了します。授業は原則として英語統一テストの成績をもとにクラス指定を行います。クラスは掲示にてお知らせしますので確認してください。なお、2015年度の英語統一テストを受験しなかった学生は、英語教育部から出される指示に従って履修してください。再履修者も同様です。詳しくは英語教育部による履修相談を受けてください。

※「英語実習2」は2単位を超えて履修することは出来ません。

※「英語実習 1」を「英語実習 Advanced」で代替した者は、2 年次以降に同科目を 2 単位修得することで、「英語実習 2」2 単位と代替することができます。

ウ. 英語演習（半期 2 単位）

経営学部開講の英語演習と全学部対象の英語演習があります。どちらを履修しても構いません。なお、2 単位を超えて単位を修得した場合は、外国語の単位には算入せず卒業に必要な教養教育科目の単位数に算入します。

・経営学部開講の英語演習

英語学習システムを活用したTOEIC対策プログラムです。春学期あるいは秋学期に 1 科目 2 単位履修します。授業時間外に、YNUネットラーニング（ATR CALL BRIX）を自学自習します。

受講クラスは選択制です。履修登録に先立つ予め定められた期間に、社会科学系経営学務係において希望クラスを予約してください。各クラスとも、定員を超えた場合は抽選になります（掲示に十分注意すること）。

・全学部対象の英語演習

Comprehensive Reading and Summary Writing I A	卒業に必要な外国語の単位（英語演習）とすることができます。読替申請の手続きは特に必要ありません。
Comprehensive Reading and Summary Writing I B	
Academic Presentation Skills A	
Academic Presentation Skills B	
英語アカデミックプレゼンテーションスキル演習（夏季集中）	卒業に必要な外国語の単位（英語演習）として読替えることができますが、科目の受講申請とは別に読替申請が必要です。申請方法は掲示にて周知します。
TOEFL iBT スピーキング対策演習（夏季集中）	

b. TOEFL, IELTSスコアによる単位認定

TOEFLまたはIELTSにおいて、基準以上のスコアを取得し、申請をした場合に英語科目として単位認定を行います。ただし、単位認定は 1 回限りとし、スコアは申請月から遡って 1 2 か月以内に取得したものを有効とし、各実施団体の証明書に基づいて認定を行います。なお、すでに単位を修得した科目がある場合は認定できません。

ア. 基準

- ・TOEFL（英語統一テストを含む）iBT100以上、ITP600以上
- ・IELTS 7.0以上

イ. 単位認定科目

1 年次の科目の場合

英語実習 1 LR春学期、1 LR秋学期、1 S、1 Wの 4 科目 4 単位について、「秀」を認定します。

2 年次の科目の場合

英語実習 2 LR、2 SW 2 科目 2 単位、若しくは英語演習 1 科目 2 単位について「秀」を認定します。

3 年次の科目の場合

経営の英語 1 科目 2 単位について「秀」を認定します。

ウ. 申請時期

春学期または秋学期の履修登録期間中に各実施団体の証明書の写しを添えて申請してください。

c. 英語（留学生）（日本語科目については19ページ参照）

ア. 英語圏からの留学生

ドイツ語・フランス語・中国語・イスパニア語・朝鮮語・ロシア語のうちから 1 ヶ国語を 8 単位（実習 4 単位＋演習 4 単位）修得することで、英語（外国語科目）の必修単位に読み替えることができます。希望する学生は、履修登録に先立つ予め定められた期間に、社会科学系経営学務係に申請してください。

イ. 英語圏以外からの留学生

英語（外国語科目）8単位（実習6単位＋演習2単位）を修得してください。

d. 英語以外の外国語

英語以外の外国語は1または2カ国語によって合計6単位修得する必要があります。次ページの表のとおり授業を開講します。いずれも春学期または秋学期の半期のクラスで、「実習」科目は1単位、「演習」科目は2単位です。事前の予備登録や合同授業が実施される場合がありますので、掲示に気を付けてください。

ア. 実習

「実習」は初級レベルの科目です。同一の外国語について、「実習1」と「実習2」をセット（合計2単位）で修得してください。「実習（会話）」も同様です。セットが完成していない場合は、「卒業に必要な外国語の単位」に算入しません。また、同一の外国語実習を2セット（合計4単位）修得しないと「演習」に進むことが出来ません。

※「実習1」の単位を修得しないと、「実習2」を履修できません。「実習（会話）」も同様です。

※同一の外国語科目の実習を2セット4単位を超えて修得した場合、「卒業に必要な外国語の単位」ではなく「卒業に必要な教養教育科目の単位」として算入されます。

イ. 演習

「演習」は中級レベルの科目です。同一の外国語実習を2セット（合計4単位）修得した者に限り履修できます。「演習」を履修しない者は、別の外国語実習を1セット2単位修得する必要があります。

（履修例）

1科目の場合例1 「中国語実習（1 a + 2 a）」、「中国語実習（1 b + 2 b）」、「中国語演習」

例2 「フランス語実習（1 + 2）」、「フランス語実習（1 + 2）（会話）」、「フランス語演習」

2科目の場合例1 「朝鮮語実習（1 + 2）」、「朝鮮語実習（1 + 2）」、「中国語実習（1 a + 2 a）」

例2 「ドイツ語実習（1 + 2）」、「ドイツ語実習（1 + 2）」、「イスパニア語実習（1 B + 2 B）」

ウ. スキップ履修

ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・朝鮮語において学習歴がある等初級相当の能力があると認められた学生は、初級レベルの「実習」を履修せずに中級レベルの「演習」から履修することができます。ただし、「実習」をスキップしても卒業に必要な単位が免除されるということではありません。1または2カ国語より合計6単位修得する必要があります。希望する学生は学期当初速やかに経営学務係に申し出てください。

エ. スピード履修

時間割等の事情により、実習2セット（合計4単位）を1年間で履修することができない場合は、スピード履修の制度があります。これは日本語及びイスパニア語を除く初習外国語において、実習1セット（合計2単位）を優以上の成績で修得し、認定試験に合格すれば、その外国語の「演習」に進むことができる制度です。ただし実習を履修する前に申請をする必要があります。また、この場合も、卒業に必要な単位数（6単位）は変わりません。

スキップ及びスピード履修の適用を受けるには、一定の条件があります。詳細は『教養教育履修案内』および社会科学系経営学務係で確認してください。

英語以外の外国語

科 目 名	単 位 数	履 修 学 年
ドイツ語実習 1 【注 1】 ドイツ語実習 2 【注 1】 ドイツ語演習	1 1 2	1 年次生から実習 1→実習 2→演習の 順序で履修します。
フランス語実習 1 【注 1】 フランス語実習 2 【注 1】 フランス語演習	1 1 2	
中国語実習 1 【注 2】 中国語実習 2 【注 2】 中国語演習	1 1 2	
ロシア語実習 1 ロシア語実習 2 ロシア語演習	1 1 2	
朝鮮語実習 1 朝鮮語実習 2 朝鮮語演習	1 1 2	
イスパニア語実習 1 イスパニア語実習 2 イスパニア語演習	1 1 2	
ギリシア語 【注 3】	1	2 年次以上
ラテン語 【注 3】	1	2 年次以上
日本語中級（留学生のみ） 日本語上級（留学生のみ） 日本語演習（留学生のみ）	1 1 2	プレイスメントテストの結果で受講科目が指定されます。

【注 1】ドイツ語とフランス語では、「実習 1（会話）」・「実習 2（会話）」のセットを「実習 1」・「実習 2」のセットに代替することが出来ます。ただし同一の外国語科目の実習を 2 セット（合計 4 単位）を超えて修得した場合は卒業に必要な外国語の単位ではなく卒業に必要な教養教育科目の単位に算入されます。

【注 2】中国語実習については、同一時間帯に同一科目名で複数の授業が開講されている場合には、事前の予備登録等が実施される場合があります。

【注 3】ギリシア語・ラテン語の単位を修得した場合は、卒業に必要な外国語の単位には算入せず、卒業に必要な教養教育科目の単位として算入されます。

⑥ 健康スポーツ科目

健康スポーツ演習 B は **2 単位まで** 卒業資格にかかわる単位数に算入します。2 単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。

教育職員免許状を取得する場合は必ず履修してください。授業内容は『教養教育履修案内講義要目』を参照してください。

受講を希望する者は、教育人間科学部健康スポーツ教育小委員会に受講の届け出を行い、小委員会から登録の許可を得てください。受講の届け出期間等については掲示にて連絡します。

なお、健康スポーツ演習 B では効率的な授業運営のために履修者数の制限を行っているため、定員以上の登録希望者がいる場合は抽選を行います。また、秋学期授業では履修状況によって追加募集することがあります。詳細については『教養教育履修案内』及び掲示等で確認してください。

⑦ 外国人留学生のための授業科目

教養教育科目の中で、外国人留学生だけが履修できる科目として、日本語科目と日本事情科目があります。

a. 日本語科目

大学で学習するために必要な日本語力を育成する科目であり、基本的な日本語力を育成する日本語実習と、それを発展させ、社会・研究生活に適した思考力・表現能力を育成する日本語演習があります。日本語科目の単位は「卒業に必要な英語以外の外国語の単位」として算入されます。

入学時点のプレイスメントテストで分けられたレベル（中級者・上級者）によって必修単位が下記の表のとおり異なります。

中級者	日本語実習（中級）	4 単位
	日本語実習（上級）	4 単位
	日本語演習	2 単位
上級者	日本語実習（上級）	4 単位
	日本語演習	2 単位

中級者は、日本語実習科目のうち、1 年次春学期には日本語中級を履修してください。1 年次秋学期からは、日本語上級と日本語演習を履修していきます。

上級者は日本語中級を履修することはできません。1 年次春学期から日本語上級を履修してください。1 年次秋学期からは日本語演習も履修できます。

以下は日本語教育担当教員が勧める日本語科目の履修モデルですので参考にしてください。

中級者	1 年次春学期 : 日本語中級 4 単位 1 年次秋学期以降 : 日本語上級 4 単位 : 日本語演習 2 単位	合計10単位
上級者	1 年次春学期 : 日本語上級 2 単位 1 年次秋学期以降 : 日本語上級 2 単位 : 日本語演習 2 単位	合計 6 単位

授業科目一覧

授 業 科 目			学期	単位数	履修年次	備 考
日本語科目	実習科目	日本語中級 A	春	1	1 年次春学期	中級者向けクラスであり、上級者は履修できません。
		日本語中級 B	春	1		
		日本語中級 C	春	1		
		日本語中級 D	春	1		
		日本語中級 E	春	1		
		日本語中級 F	春	1		
		日本語中級 G	春	2		
		日本語上級 A	春	1	1 年次～4 年次	中級者は1 年次秋学期から履修できます。
		日本語上級 B	秋	1		
		日本語上級 C	秋	1		
		日本語上級 E	秋	1		
		日本語上級 H	春	1		
		日本語上級 I ※	秋	1		
		日本語上級 J	秋	1		
		日本語上級 K	春	1		
		日本語上級 L	春	1		
		日本語上級 M	春	1		
		日本語上級 N	秋	1		
	演習科目	日本語演習 A	秋	2	1 年次秋学期～4 年次	
		日本語演習 D	秋	2		
		日本語演習 E	春	2		

※過去に「日本事情 G」を修得した者は履修できません。

b. 日本事情科目

日本事情科目は教養コア科目の現代科目の単位に算入されます。

授業科目一覧

授 業 科 目		学期	単位数	履修年次	備 考
日本事情科目	日本事情H	秋	2	1年次～4年次	

(3) 専門教育科目

① 履修方法

次の「専門教育科目履修基準表」により、各所属学科ごとの「区分」に対応した授業科目・単位数を履修してください。

卒業にかかわる学部・学科必修科目及び選択必修科目は、所属する学科の「専門教育科目一覧表」（23～28ページを参照）の授業科目から履修してください。それ以外の科目については、「自由選択科目」として、自らの所属と開講学科の別にかかわらず、「専門教育科目一覧表」の中から自由に選択することができます。

専門教育科目履修基準表【2011年度以降入学生】

区 分 \ 学 科	経 営 学 科	会 計 ・ 情 報 学 科	経 営 シ ス テ ム 科 学 科	国 際 経 営 学 科
学 部 必 修 科 目	簿 記 原 理 I 2 単 位 簿 記 原 理 II 2 単 位 経 営 の 英 語 2 単 位			
学 科 必 修 科 目	経営学総論 I 2 単位 経営学総論 II 2 単位	会計学原理 I 2 単位 会計学原理 II 2 単位 管理会計論 I 2 単位 管理会計論 II 2 単位	経営科学総論 2 単位 ビジネス・エコノミクス 2 単位 経営情報論 I A 2 単位	経営学総論 I 2 単位 経営学総論 II 2 単位 国際経営論 I 2 単位 比較経営論 I 2 単位
選 択 必 修 科 目 【注 1】	所属学科の選択 必修科目から 12 単 位 選 択	所属学科の選択 必修科目から 12 単 位 選 択	所属学科の選択 必修科目から 12 単 位 選 択	所属学科の選択 必修科目から 8 単 位 選 択
法 律 関 係 授 業 科 目	6 単 位	{ 経営学部昼間主コース及び経済学部開講の法律関係科目の中から 選択してください。ただし、経済学部開講の法律関係科目は「経 済学部基幹科目群」の中の法律科目から選択してください。 }		
ゼ ミ ナ ー ル	8 単 位 (ゼミナール I 4 単位・ ゼミナール II 4 単位)	{ ゼミナール I に参加しない、または参加しても単位を修得できな かった場合は 8 単位、ゼミナール I のみ単位を修得した場合は 4 単位を、専門教育科目から修得してください。 }		
自 由 選 択 科 目 【注 1】	経営学部昼間主コースで開講している全ての専門科目、インターンシップ等から選択で きます。			
計	76 単 位 以 上			

【注 1】夜間主コース開講科目の単位を修得した場合、30単位を上限として卒業資格に必要な単位に算入できます。

（詳細は32ページ参照）30単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業論文資格認定時及び卒業認定時に減算するので注意してください。

専門教育科目履修基準表【2010年度以前入学生】

区 分 \ 学 科	経 営 学 科	会 計 ・ 情 報 学 科	経 営 シ ス テ ム 学 科	国 際 経 営 学 科
学 部 必 修 科 目	簿 記 原 理 I 2 単 位 簿 記 原 理 II 2 単 位 経 営 の 英 語 2 単 位			
学 科 必 修 科 目	経営学総論Ⅰ 2単位 経営学総論Ⅱ 2単位	会計学原理Ⅰ 2単位 会計学原理Ⅱ 2単位 管理会計論Ⅰ 2単位 管理会計論Ⅱ 2単位	経営科学総論 2単位 ビジネス・エコノミクス 2単位 経営情報論ⅠA 2単位 経営情報論ⅡA 2単位 【注1】	経営学総論Ⅰ 2単位 経営学総論Ⅱ 2単位 国際経営論Ⅰ 2単位 比較経営論Ⅰ 2単位
選 択 必 修 科 目 【注2】	所属学科の選択 必修科目から 12 単 位 選 択	所属学科の選択 必修科目から 12 単 位 選 択	所属学科の選択 必修科目から 12 単 位 選 択	所属学科の選択 必修科目から 8 単 位 選 択
法 律 関 係 授 業 科 目	6 単 位 { 経営学部昼間主コース及び経済学部開講の法律関係科目の中から 選 択 し て く だ さ い 。 た だ し , 経 済 学 部 開 講 の 法 律 関 係 科 目 は 「 経 済学部基幹科目群」の中の法律科目から選択してください。 }			
ゼ ミ ナ ー ル	8 単 位 { ゼミナールⅠに参加しない、または参加しても単位を修得できな (ゼミナールⅠ 4単位・ ゼミナールⅡ 4単位) かった場合は8単位、ゼミナールⅠのみ単位を修得した場合は 4単位を、専門教育科目から修得してください。 }			
自 由 選 択 科 目 【注2】	経営学部昼間主コースで開講している全ての専門科目、インターンシップ等から選択 できます。			
計	76 単 位 以 上			

【注1】2009年度より、「経営情報論」は「経営情報論ⅠA」と「経営情報論ⅡA」に分割。

【注2】夜間主コース開講科目の単位を修得した場合、30単位を上限として卒業資格に必要な単位に算入できます。

(詳細は32ページ参照) 30単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業論文資格認定時及び卒業認定時に減算するので注意してください。

② 専門教育科目一覧表

専門教育科目では各授業科目ごとに「履修学年」が指定されています。履修学年に達していない学生は履修登録できません。また、専門教育科目は必ずしも毎年開講するとは限らないので、履修計画を立てる際には留意してください。なお、以下の「授業科目一覧」中で「休講」となっている科目は、2016年度は開講しません。

その他、履修科目の選択にあたっては、前ページの「専門教育科目履修基準表」をよく読んでください。

a. 昼間主コース 経営学科（※は非常勤講師）

講座	授 業 科 目 名	学期	単位	履修 学年	担 当 教 員	科 目 区 分
経営学	経営学総論Ⅰ	春	2	1	山岡 徹	【営】必修，【国】必修
	経営学総論Ⅱ	秋	2	1	服部 康宏	【営】必修，【国】必修
	企業と社会		2	2	休講	【営】選択必修
	経営管理論Ⅰ	春	2	2	山岡 徹	【営】選択必修
	経営管理論Ⅱ	秋	2	2	山岡 徹	【営】選択必修
	経営組織論	春	2	2	佐藤 秀典	【営】選択必修
	経営戦略論	春	2	2	高井 文子	【営】選択必修
	組織間関係論		2	2	休講	【営】選択必修
	現代企業論		2	2	休講	【営】選択必修
	イノベーションマネジメント論		2	3	休講	【営】選択必修
	経営史	春	2	3	公文 蔵人	【営】選択必修
	人的資源管理論Ⅰ	春	2	2	二神 枝保	【営】選択必修
	人的資源管理論Ⅱ	秋	2	2	二神 枝保	【営】選択必修
	現代コミュニケーション論	秋	2	2	中野 弘美	【営】選択必修
企業環境システム	行動科学		2	2	休講	【営】選択必修
	グループ・ダイナミクス	春	2	3	服部 康宏	【営】選択必修
	産業社会学Ⅰ		2	2	休講	【営】選択必修
	産業社会学Ⅱ		2	2	休講	【営】選択必修
	人間科学Ⅰ	春	2	2	※小嶋 正敏	【営】選択必修
	人間科学Ⅱ	秋	2	2	※小嶋 正敏	【営】選択必修
	環境マネジメント論	春	2	2	孫 穎	【営】選択必修
	環境計画学	秋	2	3	孫 穎	【営】選択必修
	産業分析		2	3	休講	【営】選択必修
	産業組織論	春	2	2	貴志 奈央子	【営】【シ】選択必修

b. 昼間主コース 会計・情報学科（※は非常勤講師）

講座	授 業 科 目 名	学期	単位	履修 学年	担 当 教 員	科 目 区 分
制 度 会 計	簿 記 原 理 I	春	2	1	泉 宏 之	学部必修
	簿 記 原 理 II	秋	2	1	原 俊 雄	学部必修
	会 計 学 原 理 I	春	2	2	大 雄 智	【会】必修
	会 計 学 原 理 II	秋	2	2	大 雄 智	【会】必修
	制 度 会 計 論	春	2	3	大 雄・木 村	【会】選択必修
	会 計 監 査 論 I	春	2	3	前 山 政 之	【会】選択必修
	会 計 監 査 論 II	秋	2	3	前 山 政 之	【会】選択必修
	公 会 計 論 I	春	2	2	齋 藤 真 哉	【会】選択必修
	公 会 計 論 II	秋	2	2	齋 藤 真 哉	【会】選択必修
	税 務 会 計 論 I	春	2	2	※平 野 嘉 秋	【会】選択必修
	税 務 会 計 論 II	秋	2	2	※平 野 嘉 秋	【会】選択必修
情 報 会 計	戦 略 会 計 論	秋	2	3	高 橋 賢	【会】選択必修
	原 価 会 計 論	春	2	2	高 橋 賢	【会】選択必修
	管 理 会 計 論 I	春	2	2	君 島 美葵子	【会】必修
	管 理 会 計 論 II	秋	2	2	君 島 美葵子	【会】必修
	生 態 会 計 論 I	春	2	2	八 木 裕 之	【会】選択必修
	生 態 会 計 論 II	秋	2	2	八 木 裕 之	【会】選択必修
	国 民 会 計 論 I		2	2	休 講	【会】選択必修
	国 民 会 計 論 II		2	2	休 講	【会】選択必修

【注1】「税務会計論Ⅰ・Ⅱ」「戦略会計論」は平成28年度履修者から選択必修科目とします。すでに単位を修得した学生は履修できません。

c. 昼間主コース 経営システム科学科 (※は非常勤講師)

講座	授 業 科 目 名	学期	単位	履修 学年	担 当 教 員	科 目 区 分
経営 科学	経 営 科 学 総 論	秋	2	1	成 島 康 史	【シ】必修
	ビ ジ ネ ス ・ エ コ ノ ミ ク ス	春	2	1	伊 藤 有 希	【シ】必修
	意 思 決 定 論		2	2	休 講	【シ】選択必修
	経 営 数 学	春	2	2	鈴 木 香 織	【シ】選択必修
	生 産 シ ス テ ム 論	秋	2	3	松 井 美 樹	【シ】選択必修
	オペレーションズ・リサーチⅠ	春	2	2	成 島 康 史	【シ】選択必修
	オペレーションズ・リサーチⅡ		2	2	休 講	【シ】選択必修
	デ ー タ 解 析 論		2	2	休 講	【シ】選択必修
経営 情報	経 営 情 報 論 Ⅰ A	春	2	1	佐 藤 亮	【シ】必修
	経 営 情 報 論 Ⅱ A	秋	2	2	佐 藤 亮	{【シ】選択必修(2011年度以降入学生) 【シ】必修(2010年度以前入学生)}
	グ ル ー プ 思 考 シ ス テ ム 論	春	2	1	田名部 元 成	【シ】選択必修
	マ ー ケ テ ィ ン グ 戦 略 論	春	2	2	鶴 見 裕 之	【シ】選択必修
	消 費 者 行 動 論	春	2	2	寺 本 高	【シ】選択必修
	マ ー ケ テ ィ ン グ ・ サ イ エ ン ス	秋	2	2	本 橋 永 至	【シ】選択必修
	流 通 論	秋	2	2	鶴 見 裕 之	【シ】選択必修
	経 営 財 務 論	春	2	2	森 田 洋	【シ】選択必修
	ファイナンスリスクマネジメント	秋	2	2	伊 藤 有 希	【シ】選択必修
	証 券 市 場 論	春	2	3	福 田 徹	【シ】選択必修
	フ ィ ナ ン シ ャ ル ・ エ コ ノ ミ ク ス		2	3	休 講	【シ】選択必修
	情 報 シ ス テ ム 論	秋	2	3	田名部 元 成	【シ】選択必修
	ビ ジ ネ ス ゲ ー ム	春	2	3	白 井 宏 明	【シ】選択必修
	インターネット・ビジネス・プランニング	集中	2	2	※瀧 澤 哲 夫	【シ】選択必修

d. 昼間主コース 国際経営学科 (※は非常勤講師)

講座	授 業 科 目 名	学期	単位	履修 学年	担 当 教 員	科 目 区 分
国 際 経 営	国 際 経 営 論 I	春	2	2	河 野 英 子	【国】必修
	国 際 経 営 論 II	秋	2	2	河 野 英 子	【国】選択必修
	国 際 人 事 管 理 論 I	春	2	3	柴 田 裕 通	【国】選択必修
	国 際 人 事 管 理 論 II	秋	2	3	柴 田 裕 通	【国】選択必修
	国 際 マーケティング論 I	春	2	3	谷 地 弘 安	【国】選択必修
	国 際 マーケティング論 II	秋	2	3	谷 地 弘 安	【国】選択必修
	グローバル・イノベーション・マネジメント論 I	春	2	3	大 沼 雅 也	【国】選択必修
	グローバル・イノベーション・マネジメント論 II	秋	2	3	大 沼 雅 也	【国】選択必修
	国 際 会 計 論 I	春	2	3	高 須 悠 介	【国】選択必修
	国 際 会 計 論 II	秋	2	3	高 須 悠 介	【国】選択必修
	国 際 財 務 論 I	春	2	3	※北 村 智 紀	【国】選択必修
	国 際 財 務 論 II	秋	2	3	※北 村 智 紀	【国】選択必修
比 較 経 営	比 較 経 営 論 I	春	2	2	曹 斗 燮	【国】必修
	比 較 経 営 論 II	秋	2	2	曹 斗 燮	【国】選択必修
	比 較 経 営 史 I	春	2	2	青 木 洋	【国】選択必修
	比 較 経 営 史 II	秋	2	2	青 木 洋	【国】選択必修
	比 較 金 融 制 度 論 I	春	2	2	高 橋 正 彦	【国】選択必修
	比 較 金 融 制 度 論 II	秋	2	2	高 橋 正 彦	【国】選択必修
	国際コミュニケーション論	春	2	2	小 林 正 佳	【国】選択必修
	言語コミュニケーション論		2	2	休 講	【国】選択必修
	比 較 社 会 文 化 論 I	秋	2	2	ソーントン タケン	【国】選択必修
	比 較 社 会 文 化 論 II		2	2	休 講	【国】選択必修
	比 較 技 術 経 営 論 I		2	2	休 講	【国】選択必修
	比 較 技 術 経 営 論 II		2	2	休 講	【国】選択必修

【注1】カリキュラムの変更に伴い、廃止となった「知財経営論Ⅰ・Ⅱ」について、「グローバル・イノベーション・マネジメント論Ⅰ・Ⅱ」で再履修することができます。「知財経営論Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得していても「グローバル・イノベーション・マネジメント論Ⅰ・Ⅱ」を履修することができますが、社会科学系経営学務係への申請が必要となりますので、注意してください。

e. 昼間主コース 経営の英語

「経営の英語」は経営学部の教員が個々の専門性に立脚しながら、英語を使って授業を行う学部必修の専門教育科目です。なお、クラスは選択制です。履修登録に先立つ予め定められた期間に、社会科学系経営学務係において、希望するクラスを予約してください。各クラスとも、定員を超えた場合は抽選になります（掲示に十分注意すること）。なお、ソーントン教員のクラスは定員35名の上級者向けクラスです。TOEFLまたはIELTSのスコアによる単位認定が可能です。詳細は16ページで確認してください。

講座	授 業 科 目 名	学期	単位	履修 学年	担 当 教 員	科 目 区 分
専 門 英 語	経 営 の 英 語	春	2	3	中 野 弘 美	学部必修
	経 営 の 英 語	秋	2	3	中 野 弘 美	学部必修
	経 営 の 英 語	春	2	3	前 山 政 之	学部必修
	経 営 の 英 語		2	3	休 講	学部必修
	経 営 の 英 語	春	2	3	ソーントン タケシ	学部必修
	経 営 の 英 語	秋	2	3	ソーントン タケシ	学部必修
	経 営 の 英 語	秋	2	3	小 林 正 佳	学部必修
	経 営 の 英 語	春	2	3	中 野 弘 美	学部必修

f. 昼間主コース 学科共通科目（講座外）（※は非常勤講師）

区分	授 業 科 目 名	学期	単位	履修 学年	担 当 教 員
法律関係 【注1】	憲 法	秋	2	2	御 幸 聖 樹
	行 政 法	春	2	3	※府 川 繭 子
	民 法 I	春	2	2	宮 澤 俊 昭
	民 法 II	秋	2	2	高 橋 寿 一
	民 法 III	秋	2	2	今 村 与 一
	民 法 IV	春	2	3	常 岡 史 子
	商 法 I	春	2	3	※竹 内 明 世
	商 法 II	秋	2	3	※竹 内 明 世
	商 法 III	秋	2	3	笹 岡 愛 美
	裁 判 法	秋	2	3	金 子 章
特殊講義	基 本 租 税 法 研 究	春	2	3	川 端 康 之
	インターンシップ	【47ページを参照してください】			
	特 グローバルビジネス実践論	秋	2	2	大 雄 智
	特 ホスピタリティ・マネジメント	秋	2	3	森 田 洋
	特 実務家が説く会計・監査・税務の最新事情	秋	2	2	原 俊 雄
	特 税理士が説く租税法概論 (日本税理士会連合会寄付講座)	春	2	2	原 俊 雄
	特 実践から学ぶキャリア・マネジメント	春	2	2	二 神 枝 保
	特 マイ・プロジェクト・ランチャー	秋	2	1	{ 井 上 徹 ※伊 藤 淳 司
	特 マーケティング・プラクティス	春	2	2	※伊 藤 淳 司
	特 社会における実践体験 －富丘会メッセージ－	春	2	2	大 雄 智
法律関係	特 金融システムと金融機関 (ニッセイアセットマネジメント寄付講座)	秋	2	2	伊 藤 有 希
	特 アジアグローバル経営基礎	秋	2	1	ヘラー ダニエル
	特 The Business of Mobility	春	2	2	ヘラー ダニエル
	特 Electric Vehicles and Corporate Strategy	春	2	2	マリノフ ミハイル
	特 City Marketing and Tourism	春	2	2	ソーントン タケシ
	特 横浜DeNAベイスターズスポーツ経営論	春	2	2	森 田 洋

【注1】2013年度以前入学生については下記の科目を履修してください。

区分	授業科目名	学期	単位	履修 学年	担 当 教 員
法律関係	企 業 組 織 法 I	春	2	2	※竹 内 明 世
	企 業 組 織 法 II	秋	2	2	※竹 内 明 世
	企 業 取 引 法	春	2	2	笹 岡 愛 美
	有 価 証 券 法	秋	2	3	笹 岡 愛 美

【注2】企業取引法は平成29年度から廃止となります。

③ 専門教育科目新旧対照表

カリキュラムの変更に伴い、一部の授業科目名が変更されています。下記の「専門教育科目新旧対照表」を参照し、旧授業科目に応じて必要な新授業科目を履修してください。修得した単位は、新授業科目で認定します。ただし、旧授業科目の単位を既に修得済の場合は、新授業科目を履修できません。

2009年度から変更

学 科	新 授 業 科 目 名	単位	旧 授 業 科 目 名	単位
経営システム科	経営情報論ⅠA	2	経営情報論	4
	経営情報論ⅡA	2		

【注】2008年以前入学生は上記2科目4単位をセットで修得しなければ、卒業資格にかかわる単位となりません。

必ず2科目セットで履修し、単位を修得してください。

2013年度から変更

学 科	新 授 業 科 目 名	単位	旧 授 業 科 目 名	単位
経営システム科	マーケティング戦略論	2	マーケティング論Ⅰ	2
	消費者行動論	2	マーケティング論Ⅱ	2
	マーケティング・サイエンス【注1】	2	マーケティング論Ⅲ【注1】	2
	インターネット・ビジネス・プランニング	2	インターネットコミュニティとEコマース	2

2014年度から変更

学 科	新 授 業 科 目 名	単位	旧 授 業 科 目 名	単位
経営	産業分析	2	公的規制論	2
経営システム科	経営財務論	2	財務論Ⅰ	2
	ファイナンシャルリスクマネジメント	2	財務論Ⅱ	2

【注1】 マーケティング論Ⅲ，マーケティング・サイエンス，流通論の取り扱いについて、履修・単位取得状況によって履修制限があります。とくに再履修をする際は注意するようにしてください。

マーケティング論Ⅲ (2012年度以前)	マーケティング・サイエンス (2013年度)		流 通 論	マーケティング・サイエンス (2014年度以降)
単位修得	－ (履修×)	→	履修×	履修○
未履修	単位修得	→	履修○	履修×
未履修	不 可	→	履修○	履修○ (再履修)
不 可	単位修得 (再履修)	→	履修○	履修×
不 可	不可又は未履修	→	履修○ (※再履修)	履修○ (※再履修)

※マーケティング論Ⅲを不可となり、かつ2013年度にマーケティング・サイエンスを不可又は未履修の場合は、流通論かマーケティング・サイエンスのどちらでも再履修することが出来ます。また、再履修科目として申請しなかった方の科目は通常通り履修することが出来ますが、経営学務係への申請が必要となりますので注意してください。

④ 分割科目「Ⅰ」の単位を修得済みであることを履修条件とする科目

2016年度

科 目 名	教 員 名
簿記原理Ⅱ	原 俊 雄
会計監査論Ⅱ	前 山 政 之
管理会計論Ⅱ	君 島 美 葵 子
国際マーケティング論Ⅱ	谷 地 弘 安

(4) ゼミナール

① 参加資格

ゼミナールⅠ・Ⅱとも教員の承認を得た上で、ゼミナールⅠについては基礎演習、ゼミナールⅡについてはゼミナールⅠの単位修得を履修条件とします。

② 時 期

選考は2年次春学期に行います。ゼミナールⅠは3年次、ゼミナールⅡは4年次から開始します。

③ 定 員

各ゼミナールとも1学年につき10名程度とします（ただし、派遣留学決定者は定員外とすることができる）。

④ 単 位 数

ゼミナールⅠ・Ⅱの単位数は各4単位（計8単位）です。ゼミナールⅠに参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は8単位、ゼミナールⅠのみ単位を修得した場合は4単位を、専門教育科目から修得してください。

⑤ 基礎演習科目

ゼミナールの準備として、2年次秋学期に開講される「基礎演習」（15ページを参照）を履修してください。

⑥ ゼミナールからの除名及び辞退

ゼミナールへの出席が著しく少ない場合またはその他の理由でゼミナールに参加させておくことが適当でないと認められる場合には、当該指導教員は教授会の承認を得た上で当該学生をゼミナールから除名できます。ただし、学生が辞退を申し出たときは、当該指導教員は教授会の承認を得ず学生の申し出を認めることができます。

なお、ゼミナールを辞退した学生は、その旨を必ず社会科学系経営学務係へ申し出てください。

(5) 卒業論文試験

① 時 期

4年次秋学期。

② 受験の資格

卒業論文試験を受験する年度初めの時点で、ゼミナールの単位を除く、卒業資格にかかわる専門教育科目の単位を48単位以上修得済みで、かつ通算GPAが2.0以上であること。つまり、卒業論文試験受験の前年（4年次に受験の場合は3年次）秋学期までの成績で資格の有無が決まりますので注意してください。また、一度卒業論文試験受験資格を得た場合でも、資格の認定は年度ごとに行いますので、翌年度に資格を失う場合があります。

個別成績表の専門教育科目の小計からゼミナールの単位と経済専門や夜間主開講科目等卒業に必要な単位に算入できる単位数に上限のある科目の上限を超えた単位を減算して、資格の認定を行います。

6月中旬に「卒業論文提出有資格者名簿」並びに「卒業論文提出要領」を掲示するので、該当する学生は注意してください。

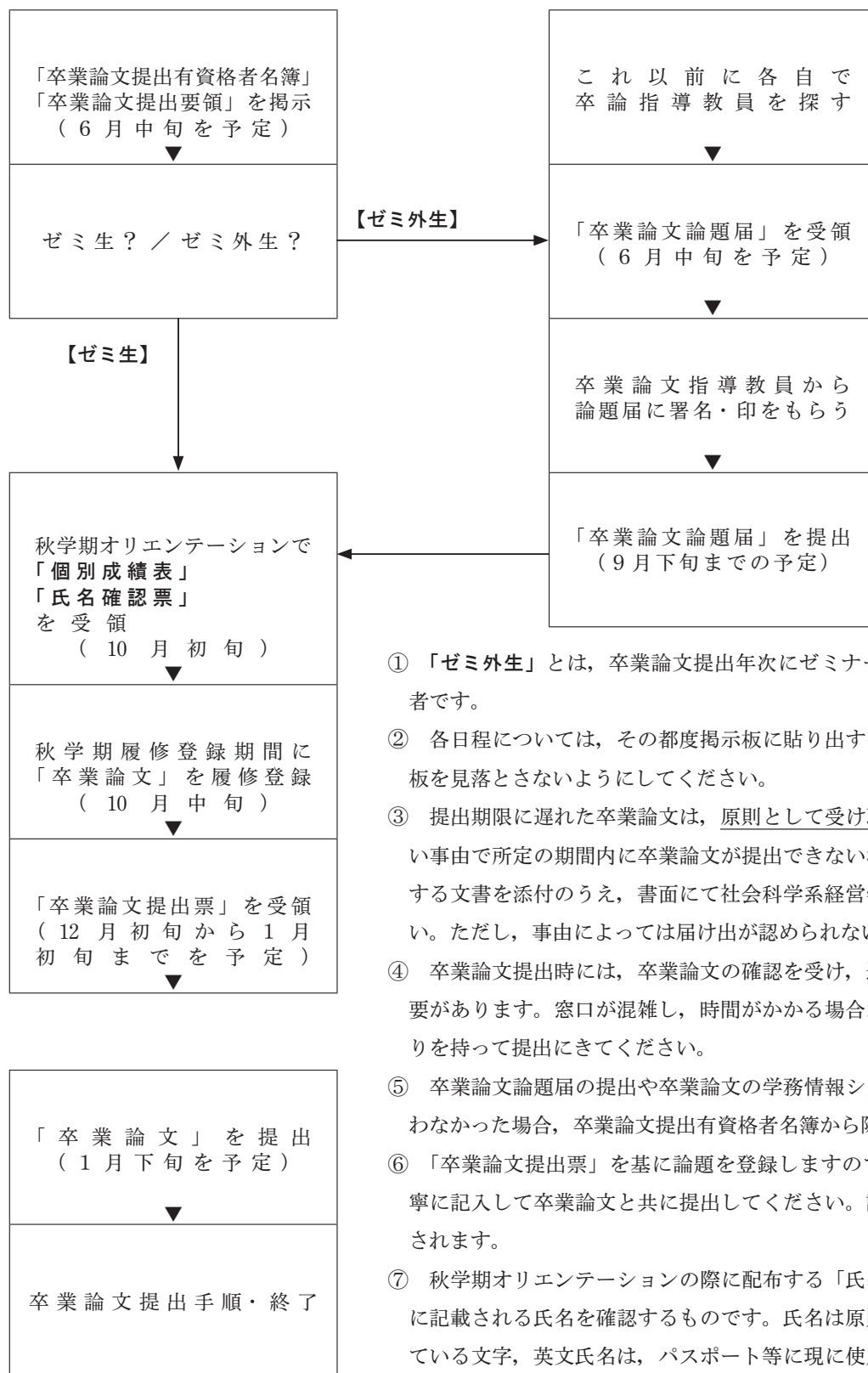
③ 論文審査委員

論文審査委員はゼミ生の場合は所属ゼミの指導教員、ゼミ外生の場合は卒業論文指導教員です。ゼミ外生は卒業論文試験受験予定年度の9月下旬までに卒業論文指導教員を独自に探し（社会科学系経営学務係では斡旋しません）、「卒業論文論題届」によって社会科学系経営学務係へ届け出てください（詳細は6月中旬に掲示します）。届け出なかった場合、卒業論文提出有資格者名簿から除名します。

④ 卒業論文提出手順

次ページ図を参照。

卒業論文提出手順の流れ図



- ① 「ゼミ外生」とは、卒業論文提出年次にゼミナールⅡを履修していない者です。
- ② 各日程については、その都度掲示板に貼り出すので、特に秋からの掲示板を見落とさないようにしてください。
- ③ 提出期限に遅れた卒業論文は、原則として受け取りません。やむをえない事由で所定の期間内に卒業論文が提出できない場合は、その理由を証明する文書を添付のうえ、書面にて社会科学系経営学務係へ届け出てください。ただし、事由によっては届け出が認められないことがあります。
- ④ 卒業論文提出時には、卒業論文の確認を受け、進路調査票を提出する必要があります。窓口が混雑し、時間がかかる場合があるので、時間にゆとりを持って提出にきてください。
- ⑤ 卒業論文論題届の提出や卒業論文の学務情報システムでの履修登録を行わなかった場合、卒業論文提出有資格者名簿から除名します。
- ⑥ 「卒業論文提出票」を基に論題を登録しますので、誤字等がないよう丁寧に記入して卒業論文と共に提出してください。論題は成績証明書に表示されます。
- ⑦ 秋学期オリエンテーションの際に配布する「氏名確認票」は、「学位記」に記載される氏名を確認するものです。氏名は原則として戸籍上使用されている文字、英文氏名は、パスポート等に現に使用しているもの、また使用予定のものを記入してください。

(6) 夜間主コースとの相互履修

「相互履修」とは、昼間主コースの学生が、夜間主コースのために開講されている授業科目を、履修時間帯を超えて履修することです。なお、相互履修については以下の制限があるので留意してください。

- ① 相互履修できるのは2年次生からです。
- ② 夜間主コース開講授業科目のうち、次の授業科目は相互履修できません。
 - ・夜間主教養科目
 - ・外国語科目
 - ・専門科目のうち下記に含まれる科目
 - 経営の英語、基本科目群、ゼミナール、夜間主開講法律関係科目、学部必修科目および所属学科の学科必修科目と同一名称の科目
- ③ 相互履修により修得した専門教育科目の単位は、30単位まで卒業資格に関する単位数に算入することができます。30単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業論文資格認定時及び卒業認定時に減算するので注意してください。
- ④ 昼間主コース及び夜間主コース両方に開設される同一名称の授業科目の重複履修は認めません。
- ⑤ 夜間主コースのみに開設される授業科目を昼間主コースの学生が履修登録する場合の科目区分は、「自由選択科目」となります。

⑥ 昼夜同時開講科目

「昼夜同時開講科目」とは、昼夜両コースで開設されている同一名称の授業科目のうち、5時限に開講される授業科目です。これらは昼間主及び夜間主コース所属の学生双方のために開講されており、学生は該当科目を自らが所属する履修コースの授業科目として履修できます。よって、単位数についての上述の③の制限を受けません。

なお、今年度開講の昼夜同時開講科目は以下の通りです。5時限に開講される科目全てが昼夜同時開講ではないので、注意してください。

【昼夜同時開講科目一覧表】

学科名	科目名	学期	単位	履修 学年
経営システム科学科	経営財務論	春	2	2
特 殊 講 義	アジアグローバル経営基礎	秋	2	1

3 夜間主コース

(1) 卒業要件

- ① 経営学部に4年以上在学していること
 - ② 卒業論文試験に合格すること
 - ③ 卒業資格基準表に定められた授業科目及び単位数を修得すること
 - ④ 卒業認定時に通算GPA (Grade Point Average) が2.0以上あること
- 以上を満たした者に対して卒業を認定し、「学士（経営学）」の学位を授与します。

① 卒業資格基準

経営学部の卒業資格にかかわる授業科目は、教養教育科目及び専門教育科目に区分します。以下の「卒業資格基準表」のとおり、授業科目区分ごとに卒業に必要な最低修得単位数を定めており、卒業までに、これら全ての条件を満たす必要があります。

卒業資格基準表【2006年度以降入学生】

教養教育科目	夜間主教養科目 【注 1】		24単位以上
	外国語科目	英語 英語以外の外国語（１ヶ国語） 【注 2】	8 単位 4 単位
	健康スポーツ科目（選択科目） 【注 3】		2 単位まで
	計		36単位以上
専門教育科目	基本科目群		8 単位以上
	法律関係授業科目		6 単位以上
	ゼミナール 【注 4】		8 単位
	自由選択科目		－
	計		76単位以上
合 計 【注 5】			124単位以上

【注1】 昼間主コースの教養教育科目のうち、インターンシップ前提科目、地域交流科目、グローバル副専攻プログラム「プラスワンカレッジ」科目群に含まれる科目において修得した単位は卒業資格に関わる夜間主教養科目の単位数に算入します。

【注2】 英語以外の外国語は「ドイツ語」又は「フランス語」から1ヶ国語を選択履修してください。

【注3】 昼間主コースで開設している健康スポーツ科目を履修することができます。修得した単位は2単位まで卒業資格に関する教養教育科目の単位数に算入します。2単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。

【注4】 ゼミナールに参加しない、または参加しても単位を修得出来なかった場合は専門教育科目から単位を修得してください。

【注5】 合計124単位のうち、教養教育科目36単位及び専門教育科目76単位を除いた12単位分は、教養教育科目または経営学部専門教育科目のどちらから修得しても構いません。

② 1単位当たりの授業時間

昼間主コースと同様です（8ページを参照）。

③ 9月卒業について

昼間主コースと同様です（8ページを参照）。

(2) 教養教育科目

① 必修科目

教養教育科目の必修科目は次の表の通りです。

区 分 \ 学 科	経 営 学 科
教 養 科 目	数 学 I ・ II 統 計 学 I-B ・ II-B
第 一 外 国 語	「英語」の1-1-I, 1-1-II, 1-2-I, 1-2-II 2-1-I, 2-1-II, 2-2-I, 2-2-II
第 二 外 国 語	「ドイツ語」又は「フランス語」の1-I, 1-II, 2-I, 2-II

② 夜間主教養科目一覧表 (※は非常勤講師)

教 養 科 目							分野
授 業 科 目 名			学 期	単 位	履修学年	担当教員	
哲 学 I 哲 学 II			春 秋	2 2	1 1	※小野島 康 雄 ※小野島 康 雄	人 文 分 野
論 理 ・ 倫 理 I 論 理 ・ 倫 理 II			春 秋	2 2	1 1	※松 浦 和 也 ※松 浦 和 也	
国 語 ・ 国 文 学 I 国 語 ・ 国 文 学 II			春 秋	2 2	1 1	※伊 藤 高 雄 ※伊 藤 高 雄	
歴 史 I 歴 史 II			春 秋	2 2	1 1	※穴 山 朝 子 ※穴 山 朝 子	
美 学 及 び 美 術 史 I 美 学 及 び 美 術 史 II			春 秋	2 2	1 1	※森 山 緑 ※森 山 緑	
心 理 学			春	2	1	※山 田 一 子	
社 会 学 I 社 会 学 II			春 秋	2 2	1 1	※小 林 由里子 ※小 林 由里子	社 会 分 野
社 会 科 学 概 論 I 社 会 科 学 概 論 II			春 秋	2 2	1 1	※飛 田 綾 子 ※飛 田 綾 子	
経 済 I 経 済 II			春 秋	2 2	1 1	※中 田 大 悟 ※中 田 大 悟	
法 学			春	2	1	※御手洗 大 輔	
日 本 国 憲 法			秋	2	1	※御手洗 大 輔	
数 学 I 数 学 II			春 秋	2 2	1 1	鈴 木 香 織 鈴 木 香 織	自 然 分 野
統 計 学 I - B 統 計 学 II - B			春 秋	2 2	1 1	※坂 原 樹 麗 ※坂 原 樹 麗	
化 学 I 化 学 II			春 秋	2 2	1 1	※矢ヶ部 重 隆 ※矢ヶ部 重 隆	
物 理 学 I 物 理 学 II			春 秋	2 2	1 1	※渋谷 一 夫 ※渋谷 一 夫	

③ 外国語科目（※は非常勤講師）

区分	科目	授 業 科 目 名	学 期	単 位	履修学年	担 当 教 員 名
英 語	英 語	英 語 1 - 1 - I	春	1	1	※木村聡雄
		英 語 1 - 1 - II	秋	1	1	※木村聡雄
		英 語 1 - 2 - I	春	1	1	※南谷奉良
		英 語 1 - 2 - II	秋	1	1	※南谷奉良
		英 語 2 - 1 - I	春	1	2	※木村聡雄
		英 語 2 - 1 - II	秋	1	2	※木村聡雄
		英 語 2 - 2 - I	春	1	2	※南谷奉良
		英 語 2 - 2 - II	秋	1	2	※南谷奉良
英 語 以 外 の 外 国 語		ド イ ツ 語 1 - I	春	1	1	※志田慎
		ド イ ツ 語 1 - II	秋	1	1	※志田慎
		ド イ ツ 語 2 - I	春	1	2	※志田慎
		ド イ ツ 語 2 - II	秋	1	2	※志田慎
		フ ラ ン ス 語 1 - I	春	1	1	※平岡敦
		フ ラ ン ス 語 1 - II	秋	1	1	※平岡敦
		フ ラ ン ス 語 2 - I	春	1	2	※平岡敦
		フ ラ ン ス 語 2 - II	秋	1	2	※平岡敦

TOEFL, IELTSスコアによる単位認定

TOEFLまたはIELTSにおいて、基準以上のスコアを取得し、申請をした場合に英語科目として単位認定を行います。ただし、単位認定は1回限りとします。スコアは申請月から遡って12か月以内に取得したものを有効とし、各実施団体の証明書に基づいて認定を行います。なお、すでに単位を修得した科目がある場合は認定できません。

ア. 基準

- ・ TOEFL（英語統一テストを含む）iBT100以上、ITP600以上
- ・ IELTS 7.0以上

イ. 単位認定科目

1年次の科目の場合

「英語」の1-1-I, 1-1-II, 1-2-I, 1-2-II 4科目4単位について「秀」を認定します。

2年次の科目の場合

「英語」の2-1-I, 2-1-II, 2-2-I, 2-2-IIのうち、2科目2単位について「秀」を認定します。

3年次の科目の場合

経営の英語1科目2単位について「秀」を認定します。

ウ. 申請時期

春学期または秋学期の履修登録期間中に各実施団体の証明書の写しを添えて申請してください。

(3) 専門教育科目

① 履修方法

次の「専門教育科目履修基準表」により、必要な授業科目・単位数を履修してください。基本科目群として履修する科目以外のものについては、「授業科目一覧」(37～39ページを参照)の中から自由に選択できます。

専門教育科目履修基準表

区 分 \ 学 科	経 営 学 科
基 本 科 目 群	経 営 学 総 論 I 経 営 学 総 論 II 簿 記 原 理 I 簿 記 原 理 II ビ ジ ネ ス ・ エ コ ノ ミ ク ス 経 営 情 報 論 I B【注1】 国 際 経 営 論 I 国 際 経 営 論 II 上 記 か ら 8 単 位 以 上 を 修 得 す る こ と 。
法 律 関 係 授 業 科 目	6 単 位 以 上 (経営学部夜間主コース開講の法律関係科目に限ります。)
ゼ ミ ナ ー ル	8 単 位 { ゼミナール I に参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は 8 単位、ゼミナール I のみ単位を修得した場合は 4 単位を、専門教育科目から修得してください。 } (ゼミナール I 4 単位・ ゼミナール II 4 単位)
自 由 選 択 科 目 【注2】	基本科目群以外の専門科目，特殊講義，インターンシップ等から選択できます。
計	76 単 位 以 上

【注1】旧授業科目名は「経営情報リテラシー」

【注2】昼間主コース開講の専門教育科目の単位を修得した場合、30単位を上限として卒業資格に必要な単位に算入できます。(詳細は42ページ参照) 30単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業論文資格認定時及び卒業認定時に減算するので注意してください。

② 授業科目一覧

専門教育科目では各授業科目ごとに「履修学年」が指定されています。履修学年に達していない学生は履修登録できません。また、専門教育科目は必ずしも毎年開講するとは限らないので、履修計画を立てる際には留意してください。以下の「授業科目一覧」の中で「休講」となっている科目は2016年度は開講しません。

その他、履修科目の選択にあたっては、上述の「専門教育科目履修基準表」をよく読んでください。

夜間主コース 経営学科

経営関係授業科目（※は非常勤講師）

授 業 科 目 名	学期	単位	履修学年	担 当 教 員	科 目 区 分
経 営 学 総 論 I	春	2	1	貴 志 奈央子	基本科目群 基本科目群
経 営 学 総 論 II	秋	2	1	ヘラー ダニエル	
経 営 学 原 理 I	春	2	2	※小 山 厳 也	
経 営 学 原 理 II	秋	2	2	※小 山 厳 也	
経 営 組 織 論	秋	2	2	佐 藤 秀 典	
経 営 戦 略 論	春	2	2	高 井 文 子	
経 営 史	春	2	3	公 文 蔵 人	
人 的 資 源 管 理 論 I		2	2	休 講	
人 的 資 源 管 理 論 II		2	2	休 講	
行 動 科 学	秋	2	2	服 部 泰 宏	
産 業 社 会 学 I	春	2	2	小 川 慎 一	
産 業 社 会 学 II	秋	2	2	小 川 慎 一	
人 間 科 学 I		2	2	休 講	
人 間 科 学 II		2	2	休 講	
産 業 組 織 論		2	2	休 講	

会計・情報関係授業科目（※は非常勤講師）

授 業 科 目 名	学期	単位	履修学年	担 当 教 員	科 目 区 分
簿 記 原 理 I	春	2	1	※吉 田 智 也	基本科目群 基本科目群
簿 記 原 理 II	秋	2	1	※吉 田 智 也	
会 計 学 原 理 I	春	2	2	木 村 晃 久	
会 計 学 原 理 II	秋	2	2	木 村 晃 久	
公 会 計 論 I		2	2	休 講	
公 会 計 論 II		2	2	休 講	
原 価 会 計 論		2	2	休 講	
管 理 会 計 論 I	春	2	2	中 村 博 之	
管 理 会 計 論 II	秋	2	2	中 村 博 之	
生 態 会 計 論 I		2	2	休 講	
生 態 会 計 論 II		2	2	休 講	
国 民 会 計 論 I	春	2	2	大 森 明	
国 民 会 計 論 II	秋	2	2	大 森 明	

経営システム科学関係授業科目（※は非常勤講師）

授 業 科 目 名	学期	単位	履修学年	担 当 教 員	科 目 区 分
経 営 科 学 総 論	秋	2	1	成 島 康 史	基本科目群
ビ ジ ネ ス ・ エ コ ノ ミ ク ス	秋	2	1	井 上 徹	
意 思 決 定 論	春	2	2	郭 沛 俊	
生 産 シ ス テ ム 論		2	3	休 講	
経 営 情 報 論 I B	春	2	1	※杉 村 倫 代	基本科目群
経 営 情 報 論 II B	秋	2	1	※杉 村 倫 代	
マ ー ケ テ ィ ン グ 戦 略 論		2	2	休 講	
消 費 者 行 動 論	春	2	2	寺 本 高	
経 営 財 務 論	春	2	2	森 田 洋	
ファイナンスリスクマネジメント		2	2	休 講	

国際経営関係授業科目（※は非常勤講師）

授 業 科 目	学期	単位	履修学年	担当教員	科目区分
国際経営論Ⅰ	春	2	2	竹内竜介	基本科目群 基本科目群
国際経営論Ⅱ	秋	2	2	竹内竜介	
国際人事管理論Ⅰ		2	3	休講	
国際人事管理論Ⅱ		2	3	休講	
比較経営史Ⅰ		2	2	休講	
比較経営史Ⅱ		2	2	休講	
言語コミュニケーション論	秋	2	2	小林正佳	
比較技術経営論Ⅰ	春	2	2	真鍋誠司	
比較技術経営論Ⅱ	秋	2	2	真鍋誠司	
経営の英語【注1】	秋	2	3	ソーントン タケン	

【注1】TOEFLまたはIELTSのスコアによる単位認定が可能です。詳細はP35で確認してください。

法律関係授業科目及びインターンシップ（※は非常勤講師）

区分	授 業 科 目 名	学期	単位	履修学年	担当教員
法律関係 【注1】	民法1	春	2	2	※長友昭
	民法2	春	2	2	※長友昭
	民法3		2	2	休講
	商法1	春	2	3	※西村将樹
	商法2	秋	2	3	※西村将樹
	商法3		2	3	休講
インターンシップ	インターンシップ	【47 ページを参照してください】			
特殊講義	アジアグローバル経営基礎	秋	2	1	ヘラー ダニエル

【注1】2013年度以前入学生については下記の科目を履修してください。

区分	授 業 科 目 名	学期	単位	履修学年	担当教員
法律関係	企業組織法Ⅰ	春	2	2	※西村将樹
	企業組織法Ⅱ	秋	2	2	※西村将樹
	企業取引法	春	2	2	※西村将樹
	有価証券法		2	3	休講
	企業活動と法		2	2	休講
	民法Ⅰ	春	2	2	※長友昭
	民法Ⅱ	春	2	2	※長友昭

【注2】「企業取引法」は、平成29年度から廃止となります。

③ 専門教育科目新旧対照表

カリキュラムの変更に伴い、一部の授業科目が変更されています。下記の「専門教育科目新旧対照表」を参照し、旧授業科目に応じて必要な新授業科目を履修してください。修得した単位は、新授業科目名で認定します。ただし、旧授業科目の単位を既に修得済みの場合は、新授業科目を履修できません。

2009年度から変更

新授業科目名	単位	旧授業科目名	単位
環境マネジメント論〈科目名変更〉	2	環境管理学	2
経営情報論ⅠB〈科目名変更〉	2	経営情報リテラシー	2
経営情報論ⅡB〈科目名変更〉	2	経営とIT	2

2013年度から変更

新授業科目名	単位	旧授業科目名	単位
マーケティング戦略論〈科目名変更〉	2	マーケティング論Ⅰ	2
消費者行動論〈科目名変更〉	2	マーケティング論Ⅱ	2

2014年度から変更

新授業科目名	単位	旧授業科目名	単位
経営財務論〈科目名変更〉	2	財務論Ⅰ	2
ファイナンシャルリスクマネジメント〈科目名変更〉	2	財務論Ⅱ	2

④ 分割科目「Ⅰ」の単位を修得済みであることを履修条件とする科目

2016年度

科 目 名	教 員 名
簿記原理Ⅱ	吉 田 智 也
管理会計論Ⅱ	中 村 博 之

(4) ゼミナール

① 参加資格

ゼミナールⅠ・Ⅱとも教員の承認を得ること。ゼミナールⅡについてはゼミナールⅠの単位修得を履修条件とします。

② 時期

ゼミの選考は原則として2年次秋学期に行います。ゼミナールⅠは3年次、ゼミナールⅡは4年次から開始します。

③ 定員

各ゼミナールとも1学年につき10名程度とします（ただし、派遣留学決定者は定員外とすることができる）。

④ 単位数

ゼミナールⅠ・Ⅱの単位数は各4単位（計8単位）です。ゼミナールⅠに参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は8単位、ゼミナールⅠのみ単位を修得した場合は4単位を専門教育科目から修得してください。

⑤ ゼミナールからの除名及び辞退

ゼミナールへの出席が著しく少ない場合、またはその他の理由でゼミナールに参加させておくことが適当でないと認められる場合には、該当指導教員は教授会の承認を得た上で当該学生をゼミナールから除名できます。ただし、学生が辞退を申し出たときは、当該指導教員は教授会の承認を得ず学生の申し出を認めることができます。

なお、ゼミナールを辞退した学生は、その旨を必ず社会科学系経営学務係へ申し出てください。

(5) 卒業論文試験

① 時期

4年次秋学期。

② 受験の資格

卒業論文試験を受験する年度初めの時点で、ゼミナールの単位を除く、卒業資格にかかわる専門教育科目の単位を40単位以上修得済みで、かつ通算GPAが2.0以上であること。つまり、卒業論文試験受験の前年（4年次に受験の場合は3年次）秋学期までの成績で資格の有無が決まりますので注意してください。また、一度卒業論文試験受験資格を得た場合でも、資格の認定は年度ごとに行いますので、翌年度に資格を失う場合があります。

個別成績表の専門教育科目の小計からゼミナールの単位と経済専門や昼間主開講科目等卒業に必要な単位に算入できる単位数に上限のある科目の上限を超えた単位を減算して、資格の認定を行います。

6月中旬に「卒業論文提出有資格者名簿」並びに「卒業論文提出要領」を掲示するので、該当する学生は注意してください。

③ 論文審査委員

論文審査委員はゼミ生の場合は所属ゼミの指導教員、ゼミ外生の場合は卒業論文指導教員です。ゼミ外生は卒業論文試験受験予定年度の9月下旬までに、卒業論文指導教員を独自に探し（社会科学系経営学務係では斡旋しません）、「卒業論文論題届」を社会科学系経営学務係へ届け出てください（詳細は6月中旬に掲示します）。届け出なかった場合は、卒業論文提出有資格者名簿から除名します。

④ 卒業論文提出手順

昼間主コース、31ページを参照。

(6) 昼間主コースとの相互履修

「相互履修」とは、夜間主コースの学生が、昼間主コースの学生のために開講されている授業科目を、履修時間帯を越えて履修することです。

① 教養教育科目

- a 1年次から相互履修することができます。
- b 教養教育科目のうち履修できる科目

- ・インターンシップ前提科目（「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」、「ベンチャーから学ぶマネジメント」）
- ・地域交流科目（教養教育科目のみ）
- ・「グローバルPLUS ONE」副専攻プログラムの科目群A～C、Eに含まれる科目

以上の科目を修得した場合は、卒業資格にかかわる夜間主教養科目の単位に算入されます。

- ・健康スポーツ科目

修得した場合、2単位まで卒業資格にかかわる教養教育科目の単位数に算入されます。2単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業認定時に減算するので注意してください。

- ・英語による授業科目の一部

履修できる科目については掲示及び窓口にて一覧を配布しますので、確認してください。単位を修得した場合は、卒業資格外の単位となります。

② 専門教育科目

- a 相互履修できるのは2年次生からです。
- b 次の授業科目は相互履修できません。

専門科目のうち下記に含まれる科目

→基本科目群と同一名称の科目，経営の英語，法律関係科目，ゼミナール

- c 相互履修により修得した専門教育科目の単位は，30単位まで，卒業資格にかかわる単位数に算入できます。30単位を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが，卒業論文資格認定時及び卒業認定時に減算するので注意してください。
- d 夜間主及び昼間主コースの両方で開設される同一名称の授業科目の重複履修は認めません。
- e 昼間主コースのみに開講される授業科目を，夜間主コースの学生が履修登録する場合の授業区分は「特殊講義」となります。
- f 昼夜同時開講科目

「昼夜同時開講科目」とは，昼夜両コースで開設されている同一名称の授業科目のうち，昼夜相互時間帯（5時限：3ページ，(6)「授業時間」を参照）に開講される授業科目のことです。これらは昼間主及び夜間主コース所属の学生双方のために開講されており，学生は当該科目を自らが所属する履修コースの授業科目として履修できます。よって，単位数についての上述cの制限を受けません。

なお，本年度開講の昼夜同時開講科目は以下のとおりです。5時限に開講される科目全てが昼夜同時開講ではないので，注意してください。

【昼夜同時開講科目一覧表】

区分	科目名	学期	単位	履修 学年
経営システム科学科	経営財務論	春	2	2
特 殊 講 義	アジアグローバル経営基礎	秋	2	1

4 経営学部以外の授業科目の履修

経営学部以外で開講される授業科目を履修することができます。そのうち下記の表にある科目で修得した単位は、最大30単位まで本学部における授業科目の履修により修得したものとみなし、卒業に必要な単位数に算入します。それぞれの上限を超えて修得した場合も個別成績表の合計欄等に表示されますが、卒業論文資格認定時及び、卒業認定時に減算するので注意してください。

- | |
|-------------------------------|
| ①経済学部専門教育科目 ≤ 8単位 |
| ②経済学部法律関係授業科目 ≤ 6単位【注1】 |
| ③国際社会科学府博士課程前期経営学専攻開講科目 ≤ 8単位 |
| ④横浜市内大学間（放送大学含む） ≤ 8単位 |
| ⑤国際交流科目 ≤ 8単位 |
| ⑥短期派遣留学・休学中の留学による単位認定 ≤ 30単位 |
| ①+②+③+④+⑤+⑥ ≤ 30単位 |

【注1】 昼間主コースのみ

なお、修得した単位の取扱いについては以下のとおりです。

（1）経済学部開講科目

- ① 経済学部の専門教育科目は、8単位まで卒業に必要な専門教育科目（自由選択科目）の単位数に算入します。
- ② 下記の授業科目は履修対象から除外します。

履修学年に1年次が含まれている授業科目 集中講義の形式で実施される授業科目 インターンシップ ゼミナール 教職に関する授業科目 法律関係授業科目（夜間主コースのみ）

- ③ 成績はGPAに算定します。
- ④ 法律関係授業科目の単位の取り扱い（昼間主コースのみ）

昼間主コースの学生は経済学部の法律関係授業科目を履修することができます。修得した単位のうち6単位までは上記①の8単位とは別に経営学部専門教育科目履修基準表に規定する法律関係授業科目の単位数に算入します。法律関係授業科目の修得単位数が6単位を超えた場合のみ、その超過分を上記①の単位数に算入します。

ア. 2014年度以降入学生

経営学部開講の全ての法律関係科目について、経済学部と共同で開講しています（同一科目）。どちらの学部の科目も同一名称なので、経営学部の科目（時間割コードが3で始まる）で履修登録するよう注意してください。

イ. 2013年度以前入学生

下記の法律関係授業科目は経営学部と経済学部で共同開講している同一科目です。経営学部生は経営学部開講の科目名で履修登録してください。

経営学部開講		経済学部開講
企業組織法Ⅰ	↔	商法1
企業組織法Ⅱ	↔	商法2
企業取引法	↔	商法3
有価証券法	↔	商法4

- ⑤ 経営学部生が履修できる経済専門科目（法律含む）は配布する時間割表に記載しています。

（２）理工学部及び教育人間科学部開講科目

理工学部及び教育人間科学部で開講される専門教育科目のうち、一部の科目を履修することができます。ただし、それらの科目の単位を修得しても卒業資格外の単位となり、その成績もGPAに算定しません。履修希望者は社会科学系経営学務係へ相談してください。

（３）地域交流科目

地域交流科目とは、特定のテーマについて、所属する学部・学科を超えて系統的に学習する「副専攻プログラム」のひとつです。地域の課題解決を担う人材を実践的に育てることを目的として開設しています。

地域交流科目は教養教育科目と各学部の専門教育科目の一部で構成されています。それぞれの科目を履修した場合は、教養教育科目または各学部の専門教育科目を履修したもの〔上記（１）、（２）を参照〕として単位が与えられます。

地域交流科目の詳細は、『平成28年度地域交流科目履修案内』または次のURLを参照してください。

<http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp/30progn/index.html>

（４）国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目

本学大学院国際社会科学府経営学専攻博士課程前期の開講科目を履修することができます。履修を希望する学生は、履修登録前に社会科学系経営学務係に履修希望届を提出してください。

- ① 提供科目は原則として、専修コース（ビジネス・スクール）を除くすべての開講科目です。
- ② 履修年次は４年次のみです。
- ③ 履修の可否は科目担当教員により決定されます。
- ④ 本人の申し出により、８単位まで卒業に必要な単位数に算入することができます。
- ⑤ 成績はGPAに算定しません。
- ⑥ 学部の卒業に必要な単位数に算入せず、国際社会科学府経営学専攻博士課程前期に進学した場合は、本人の申し出により、８単位まで修了に必要な単位数に算入することができます。

（５）横浜市内大学間単位互換制度（放送大学含む）

横浜市内大学間単位互換制度とは、横浜市内にある12の大学が協定を結び、各大学が提供する授業科目を相互に履修できる制度です。なお、放送大学の授業科目もこの制度を準用して履修することができます。

- ① 履修の対象となるのは、専門教育科目のみです。
- ② ８単位まで卒業に必要な単位数に算入します。
- ③ 成績はGPAに算定しません。
- ④ 履修学年は各大学の指定によります。
- ⑤ 単位認定は科目の内容及び成績に基づいて、経営学部で行います。

※全ての単位が認定されるわけではありません。不安な方は経営学務係までお問い合わせ下さい。

- ⑥ 履修希望者は学務・国際部教務課で配布する募集要項を受領し、指定された期日までに学務・国際部教務課へ申請してください。放送大学の申請手続は横浜市内大学間の手続とは異なります。掲示で確認してください。
- ⑦ 履修の可否は希望先大学の選考により決定され、４月下旬に学務・国際部教務課より履修希望者に通知します。

(6) YCCS特別プログラムによる開講科目

YCCS特別プログラムによる開講科目は、科目によって履修方法・単位の取り扱いが異なりますので気をつけてください。YCCS特別プログラムによる開講科目の種類は大きく分けて3種類ありますが、どの科目が該当するかについては揭示等でお知らせします。

① 教養教育科目として開講されている科目【注1】

YCCS特別プログラムによる開講科目のうち教養教育科目として開講されている科目があります。この科目は教養教育科目の時間割コードを用いて履修登録し、単位を修得すると科目ごとに定められた科目区分に従い卒業に関わる単位に算入されます。(英語演習の取り扱いについては16ページも参照してください)

【注1】夜間主コースの学生も履修することができ、グローバル副専攻プログラム「プラスワン・カレッジ」に定められた科目群(Dを除く)に含まれる科目は卒業に関わる夜間主教養科目の単位に、その他の科目については卒業要件外の単位となります。

② 経営学部が専門教育科目として開講している科目

下記の科目は経営学部が昼間主コースの専門教育科目(特殊講義)として開講しています。経営学部生は経営学部の時間割コードを用いて履修登録し、単位を修得すると専門教育科目(特殊講義)として卒業に関わる単位に算入されます。

夜間主コースの学生は昼間主コースとの相互履修制度を利用して履修することができます。

科 目 名	学期	単位	履修年次	担当教員
Electric Vehicles and Corporate Strategy	春	2	2	ミハイル マリノフ
The Business of Mobility	春	2	2	ヘラー ダニエル
City Marketing and Tourism	春	2	2	ソーントン タケシ

③ 国際交流科目

YCCS特別プログラムによる開講科目のうち国際交流科目として開講されている科目があります。この科目は国際交流科目の時間割コードを用いて履修登録しますが、単位を修得しても卒業資格外の単位となり、その成績はGPAには算定しないので気をつけてください。

ただし、経営学部専門教育科目として認定する科目は、8単位を上限として、卒業に必要な単位数に算入しますが、その成績はGPAには算定しません。

2016年度の単位認定科目は下記の通りです。

科 目 名	学期	単位	履修年次	担当教員
日本の経営	春	2	1	横 澤 公 道
日本型生産管理	春	2	1	松 井 美 樹
Sustainability Management and Accounting【注1】	秋	2	1	大 森 明
日本の企業システム	春	2	1	長谷川 健 治
企業会計	春	2	1	Stuart Brison

【注1】旧授業科目名は「日本における環境会計」

単位認定申請は必要ありません。そのまま履修登録してください。

修得単位が8単位を超えた場合には、卒業論文資格認定、卒業判定の際に単位を減算しますので、注意してください。

(7) 交換留学（派遣）制度

① 概要

本学部では、イギリス、アメリカ、オーストラリア、フランス、スウェーデン、中国、韓国、スイス、チェコ、インド等50校以上の協定校と学生交流の覚書を交わしており、1年あるいは半年の期間、本学に在籍したまま各協定大学へ留学することができます。留学中、授業料は本学で納入し、相手大学の検定料、入学料、授業料は免除されます。また、留学中に修得した単位は、教授会の議を得て認定の可否が決定されます。

ただし、派遣留学生となるためには、いくつかの条件を満たさなければなりません。大学ごとに応募資格や派遣定員が決まっていますので、あらかじめ確認し、十分に準備をするようにしてください。語学面では、英語圏の大学及び非英語圏の大学の英語によるコースへの留学希望者の場合には、学内基準として、TOEFL iB T80が必要です。非英語圏の大学への留学希望者の場合にも、各種語学テストのスコアや第2外国語の履修証明（成績）等が必要になります。

各大学への応募資格、派遣定員、就学期間等詳細については、社会科学系経営学務係窓口で確認してください。また、経営学部や教務課では、留学説明会を実施していますので、積極的に参加するようにしてください。

② 単位の認定

- a. 留学先大学での履修科目の内容が、経営学部開講科目のいずれかに相当すると判断された場合に30単位を上限に単位を認定します。
- b. 対象となる科目は、教養教育科目と専門教育科目の全てです。
- c. 留学先履修科目1科目に対して、経営学部開講科目1科目が対応します。ただし、履修科目の単位が4単位以上の場合、経営学部開講科目2科目で認定することや、異なる2科目以上の単位として認定することがあります。また、異なる履修科目の単位を合算して、1科目分の単位として認定することがあります。
- d. 対応する科目がない場合（単位修得済みを含む）は、原則として卒業資格外の単位となります。ただし、経営学部専門教育科目に相当すると判断される科目について、特殊講義として認定することがあります。また、教養教育科目（外国語科目を含む）について、授業で使用された言語に相当する外国語科目として認定することがあります。
- e. 成績はGPAに算定しません。
- f. 帰国後1ヶ月以内に社会科学系経営学務係まで申請してください。

(8) その他

教育上有益と認める場合、休学期間中に外国の大学又は短期大学において履修した授業科目について、経営学部開講科目のいずれかに相当すると判断された場合は、単位の認定をします。単位の認定方法は、(7) ②を参照すること。不安な方は留学前に経営学務係までお問い合わせください。

5 キャリア教育

キャリア教育とは就業への意識と適応能力を高め、将来の職業選択に資するための教育です。経営学部では、キャリア教育の一環として、以下の制度を設けています。

(1) インターンシップ

インターンシップは学生が一定期間企業等で研修生として働き、自分の将来に関連する就業を体験できる制度です。経営学部ではインターンシップを専門教育科目として開設しています。同科目を履修した場合は最大6単位まで卒業に必要な単位数に算入します。なお、成績はGPAに算定しません。

① 対象となるインターンシップ

企業等で1ヶ月以上の業務を行う中長期・実践型のものに限ります。

② インターンシップ前提科目の履修

インターンシップの実践以前に、経営学部が毎年度開講する教養コア科目（総合科目）、「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」、「ベンチャーから学ぶマネジメント」の2科目のうち1科目以上を履修登録済であること。

※夜間主コースの学生も、上記のインターンシップ前提科目を履修できます。修得した単位は、夜間主教養科目の単位となります。

③ インターンシップ受入れ企業等の決定

学生本人が行うこと。ただし、特定の受入れ可能な企業の紹介とマッチングを経営学部が支援します。支援内容等は掲示板で確認してください。

④ 提出書類

インターンシップ受入れ企業等の決定後、「インターンシップ単位認定申請書」を社会科学系経営学務係に提出してください。また、インターンシップ終了後、「インターンシップ成果報告書」、受入れ企業等が作成した「評価書」を社会科学系経営学務係に提出してください。なお、提出に必要な用紙は社会科学系経営学務係にあります。

⑤ 履修登録

上記④をすべて終えた次の学期に、認定単位数に基づき、履修登録を行います。履修登録の方法は掲示で確認してください。単位認定の対象となるインターンシップ実践期間は、履修登録を行う学期の前学期末までです。書類提出締切を設けていますので、掲示で確認してください。また、インターンシップを継続中の場合は、社会科学系経営学務係に報告してください。

⑥ その他

- a. インターンシップは、休業期間に行うことが原則です。授業への出席に支障があると判断される場合は、履修できないので注意してください。
- b. 認定単位数は、「インターンシップ成果報告書」とインターンシップ受入れ企業等作成の「評価書」を基に、就業90時間1単位を目安として経営学部教授会で決定します。
- c. インターンシップ実践において、交通費及びそれに代わる報酬等が支払われない場合には、実習定期乗車券を申請することができます。申請者は、インターン受入れ決定後、直ちに「インターンシップ実習用定期乗車券申請書・交通費無支給証明書」を提出してください。用紙は社会科学系経営学務係にあります。
- d. 学外でのインターンシップ実践に際しては、受入れ企業側の保険の有無を確認し、保険が適用されない場合には、学生自身の負担において傷害保険及び賠償責任保険に加入してください。

(2) 副専攻プログラム ビジネス・プラクティス

ビジネス・プラクティスは、所属する専攻（課程・学科）以外の分野を系統的に学習する「副専攻プログラム」の一つです。ビジネスにおける実践性を重視した下記の「ビジネス・プラクティス科目群」の修得と、現実的な課題への対応能力を養う「ビジネス・プラクティス修了課題」への取り組みによって、企画力・発信力・実現力を養い、ビジネス人材としての価値を高めることを意図しています。

① ビジネス・プラクティス科目群

コア科目	経営者から学ぶリーダーシップと経営理論（必修）
	ベンチャーから学ぶマネジメント（必修）
選択科目	経営学部インターンシップ
	マイ・プロジェクト・ランチャー
	マーケティング・プラクティス
	現代の物流経営
	インターネット・ビジネス・プランニング／インターネットコミュニティとEコマース
	ビジネスゲーム
	特定の産業を取り上げ、経営者・実務家から経営ノウハウを学ぶ授業（「社会的起業論」など）
	社会における実践体験 ー富丘会メッセージー

② 修了要件

下記の3つの要件をすべて満たした者を修了とします。

- コア科目：計4単位（「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」及び「ベンチャーから学ぶマネジメント」）を修得。
- 選択科目：「ビジネス・プラクティス科目群」から8単位以上を修得。
- 経営学部キャリア教育委員会が課す「ビジネス・プラクティス修了課題」の合格。

③ ビジネス・プラクティス修了課題と申請手続き

ビジネス・プラクティス修了課題は、年1回秋学期に行います。上記の修了要件のa、bを満たしているか、または当該年度の秋学期に単位修得見込みで、ビジネス・プラクティスの修了を希望する者は、秋学期の履修登録期間中に、ビジネス・プラクティス修了課題受験申請書を、社会科学系経営学務係に提出してください。申請者にはビジネス・プラクティス修了課題の実施について別途連絡します。

④ 修了証

ビジネス・プラクティス修了課題に合格し、②の修了要件をすべて満たした者には、当該年度末に副専攻プログラム「ビジネス・プラクティス」修了証を発行します。

6 教育職員免許状

経営学部では教育職員免許状を取得することができます。取得できる免許状の種類は「高等学校教諭 1 種普通免許状」、教科は「商業」です。

(1) 必要な資格と単位

教育職員免許状を取得するためには、教育職員免許法及び同法施行規則に規定された以下の資格と科目の単位を修得する必要があります。

基礎資格	学士の学位を有すること。	
教科に関する科目	2010年度入学生以降：44単位（「職業指導」 4 単位を必ず含めること） 2009年度入学生以前：42単位（「職業指導」 4 単位を必ず含めること）	
教職に関する科目	教職論	2 単位
	人間形成論【2010年度以前入学生】	} 2 単位
	教育基礎論【2011年度以降入学生】	
	教育の心理学	2 単位
	商業科教育法	4 単位
	生徒理解【2010年度以前入学生】	} 2 単位
	生徒・進路指導論【2011年度以降入学生対象】	
	教育実習	3 単位
特に必要なものとして文部科学省令で定める科目	日本国憲法	2 単位
	体育	2 単位
	外国語コミュニケーション	2 単位
	情報機器の操作	2 単位

(2) 履修方法

① 教科に関する科目

教科に関する科目44単位（2009年度入学生以前は42単位）は、本学部専門教育科目のうち、商業関係科目の単位で充たします。商業関係科目については、必要に応じて経営学務係で確認してください。なお、「職業指導」（4単位）は「人間科学Ⅰ」「人間科学Ⅱ」（計4単位）または「人的資源管理論Ⅰ」「人的資源管理論Ⅱ」（計4単位）を代替科目として指定しているので、いずれかの組み合わせを必ず履修してください。

② 教職に関する科目

教職に関する科目は開講されない年度があるので、履修については特に注意してください。詳細については、後日学生用掲示板にて別途掲示します。なお、また、教育人間科学部で開講する教職科目の履修を希望する場合は、経営学務係に事前に相談してください。

③ 特に必要なものとして文部科学省令で定める科目

特に必要なものとして文部科学省令で定める科目は、次の本学部開講科目で履修してください。「体育」は「健康スポーツ演習B」（2単位）、「外国語コミュニケーション」は本学部卒業資格にかかわる外国語科目、「情報機器の操作」は「経営情報論ⅠA」「経営情報論ⅡA」「経営情報論ⅠB」「経営情報論ⅡB」（各2単位）のいずれか1科目です。

(3) 教育実習

① 概要

教育実習は事前指導・本実習・事後指導からなり、以下の手順で実施します。なお、いずれの事項も必須です。

教育実習参加前年度	4月 「教育実習参加仮申込書」を提出。
	4月～ 教育実習の受け入れ先を自ら探し、受け入れを依頼。
	12月 教育実習終了者の「事後指導」を見学し、来年度教育実習参加者オリエンテーションに参加。
教育実習参加年度 (卒業年度)	4月 「事前指導」を受講。 「教育実習申込書」を提出。 「教育実習」を履修登録。
	6月または11月 本実習を実施（2週間）。 (終了後2週間以内に教育実習記録をまとめ、経営学務係に提出)
	12月 「事後指導」を受講。 (前日までに本実習レポートを経営学務係に提出)

② 履修要件

教育実習は卒業年次に、卒業見込みの者に限り履修できます。

卒業の前年度までに次の科目及び単位を修得していることが必要です。

専門教育科目	<div> <div> <div>昼間主コース</div> <div>48単位以上</div> </div> <div> <div>夜間主コース</div> <div>40単位以上</div> </div> </div> <div> <div>{ 「職業指導」 4単位を含む。</div> <div>ゼミナールの単位は除く</div> <div>}</div> </div>
教職に関する科目	12単位（2010年度以降入学生） (商業科教育法4単位、生徒・進路指導論2単位を含む)

※実習に参加する前に傷害保険及び賠償責任保険に加入し、教育実習中の事故等が給付の対象となるか必ず確認してください。

(4) 免許状授与申請

教育職員免許状取得希望者は、申請に必要な証明書を経営学務係に請求し、その証明書を持って自ら各都道府県教育委員会に免許状授与申請を行ってください。なお、申請方法、申請受付期間等の詳細については、申請先の教育委員会に照会してください。

7 学務関係諸手続き

(1) 休学，退学，除籍

① 休 学

休学を希望する学生は、本学所定の「休学願」に必要事項を記載し、事由に応じた証明書類を添付して、社会科学系経営学務係に申請してください。休学には学長の許可を得なければなりません。

a. 休学の対象となる事由及び必要証明書類

休学の対象となる事由	必 要 証 明 書 類
本人の疾病又は負傷	医師の診断書（様式随意） ※加療に必要な期間（＝休学期間）の記載が必要
本人の出産又は親として3歳未満の育児に従事	出産に関する医師の診断書等（様式随意）
学資の支弁が困難	父母等の「理由書」（様式随意）及び事実を証明する書類
世帯主その他の死亡等により一時的に家業に従事	父母等の「理由書」（様式随意）及び事実を証明する書類
家族の看病又は介護	看病については、父母等の「理由書」（様式随意）及び医師の診断書（様式随意）、介護については父母等の「理由書」及び事実を証明する書類
勤務の都合	勤務先の証明書（様式随意）
語学研修及び語学研修に伴って特定の専門領域を研修	・受け入れ先の学校の「入学許可書」（本紙を持参のこと。） ・本学所定の「計画書」（社会科学系経営学務係経営学務係窓口で受領してください。）
ワーキングホリデー	・ビザ（コピー不可） ・ワーキングホリデー制度の説明書又はパンフレット（コピー可） ・本学所定の「計画書」（社会科学系経営学務係窓口で受領してください。）

- b. 休学申請の時期は、原則として春学期または秋学期の開始する1ヶ月以上前までです。なお、学期の開始後に休学の事由が発生した場合は、速やかに証明書類（前述）を添付して社会科学系経営学務係に申請してください。
- c. 休学中の学生が、休学期間の延長を願い出る場合は、休学期間満了の1ヶ月前までに社会科学系経営学務係へ願い出てください。
- d. 休学期間が満了しないうちに休学事由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができます。
- e. 休学の許可を受けようとする場合は、休学期間開始前の学期の授業料を納入済みであることを必ず確認してください。

② 退 学

- a. 退学を希望する学生は、本学所定の「退学願」を社会科学系経営学務係に提出してください。退学には学長の許可を得なければなりません。
- b. 退学の許可を受けようとする場合は、あらかじめ、退学を希望する学期（春学期または秋学期）までの授業料を納入済みであることを必ず確認してください。

③ 除 籍

授業料を納付期限までに納めなかった者、在学期間を超えた者、休学期間を超えた者等は、除籍されます。

(2) 住所変更等の届け出

下記の変更があった場合は、学務部 教育企画課窓口へ届け出てください。

変 更 事 項	届 け 出 る 文 書
本人の住所変更	学生住所変更届
本人の本籍の変更	本籍変更届
父母等連絡人の住所変更	父母等連絡人住所変更届
父母等連絡人の変更	父母等連絡人変更届
本人及び父母等の転籍、改姓、改名	本学所定の「転籍（改姓・改名）届」及び戸籍謄本または戸籍抄本

(3) 学生証の携帯

学生証は常に携帯し、紛失した場合は早急に再発行の申請手続きをしてください。学生証の掲示がない場合、学期末試験が受験できないほか、本学部学生としてのサービスが受けられないので、十分注意してください。

なお、学生証発行の申請窓口及び再発行までに要する日数は下記のとおりです。

受 付 窓 口	発 行 日 数
学 務 部 教 育 企 画 課	7 日 後 (土日・祝日を除く)

(4) 在学中の証明書の発行

学生はあらかじめ提出先・必要な理由・必要部数を確認し、日程に余裕をもって申し込んでください。また、証明書の書類によって申し込み窓口が異なるので注意してください。なお、証明書発行の申込み並びに受領の際は必ず「学生証」を提示してください。

① 受付窓口、証明書の種類、発行日数（※土日・祝日を除いた日数）

受 付 窓 口 等	証 明 書 の 書 類		発 行 日 数
証 明 書 自 動 発 行 機 (学生センター・経営学部) C棟(事務棟)ロビー	和 文	在学証明書	即 日
		成績証明書	即 日
		卒業見込証明書	即 日
		健康診断書	即 日
社 会 科 学 系 経 営 学 務 系	和 文	調 査 書	3 日 後
	英 文	在学証明書	3 日 後
		成績証明書	7 日 後
		卒業見込証明書	3 日 後

※申し込み、受領の際は直接窓口に来てください。郵便等には応じません。

② 申込方法

社会科学系経営学務係受付の証明書

社会科学系経営学務係備え付けの「証明書交付願」及び封筒に必要事項（氏名等）を記入の上、申し込んでください。

(5) 卒業後の証明書の発行

下記の方法により、本人が社会科学系経営学務係に申し込んでください。本人以外には原則として交付しません。やむを得ず本人以外の者が代理で交付を希望する場合は、本人からの「委任状」(様式随意)及び代理人の身分を証明できるものを持参(または写しを同封)してください。

① 郵送による申込方法

- a. 証明書交付願及び返信用封筒(角型2号:住所・氏名を明記し、送料分の切手を貼付、郵送時折曲可)を社会科学系経営学務係宛に郵送してください。証明書交付願は大学ホームページよりダウンロードできます。

※ただし、下記の項目が記入されていれば指定の書式でなくても構いません。

入学年月及び卒業年月
所属学科名
氏名・フリガナ(英文証明書の場合はアルファベットでも記入のこと)
生年月日(英文証明書の場合は西暦で記入のこと)
必要な証明書の種類
必要部数
請求理由
提出先
連絡先住所・電話番号

- b. 証明書の交付までにかかる日数

ア. 和文: 申請書受領の翌日から数えて3日後に発送(土日・祝日を除く)

(大学院受験用の「調査書」については、指導教員が記入する事項等があるため、あらかじめ電話により社会科学系経営学務係へ連絡してください。)

イ. 英文: 申請書受領の翌日から数えて7日後に発送(土日・祝日を除く)

(「英文成績証明書」については、発行まで相当の日数を要するため、あらかじめ電話により社会科学系経営学務係へ連絡を取ってください)

② 窓口での申込方法

社会科学系経営学務係窓口に直接本人が出向き、証明書交付願に必要事項を記入の上、申し込んでください。

後日再度お越しいただくか、郵送での受取りを希望される場合は返信用封筒(角型2号:住所・氏名を明記し、送料分の切手を貼付)を持参してください。

③ 証明書の種類、発行日数(※土日・休日を除いた日数)

発行対象者	証明書の種類	発行日数
卒業生	卒業証明書(和文)	3日後
	卒業証明書(英文)	7日後
	成績証明書(和文)	3日後
	成績証明書(英文)	7日後

(6) 社会科学系経営学務係窓口受付時間帯

① 社会科学系経営学務係の窓口時間帯

月 曜 日 金 曜 日	昼間：8時30分～12時45分 13時45分～17時00分
	夜間：17時00分～20時00分 【ただし授業期間中のみ】

※昼休み時間（12時45分～13時45分）は窓口が閉まりますので注意してください。

※休業期間中の窓口業務は**17時00分まで**となるので注意してください。

※その他臨時に休業期間中と同じ扱いとすることがあるので掲示に注意してください。

② 提出物（レポート等）の提出時間帯

授業期間中 月～金（祝日を除く）	8時30分～12時45分、13時45分～20時00分
授業期間外 月～金（祝日を除く）	8時30分～12時45分、13時45分～17時00分

締切時間については、掲示等による特別の掲示がない限り、以下のとおりです。授業科目の開講時間帯により締切時間が異なるので注意してください。締切時間を過ぎたものについては、理由（レポートBOX前の混雑、コピー機の故障等）を問わず、社会科学系経営学務係では受理しません。

1限～4限の授業科目	<u>17時00分</u>
5限～7限の授業科目	<u>20時00分</u>

(7) 緊急情報提供

大学からの緊急連絡（例えば、台風や新型インフルエンザなどによる休校措置）を伝える手段として、「自動応答メールによる緊急情報提供サービス」を行っています。 urgent@ynu.ac.jp にメール送信をすると、自動的に緊急情報を返すサービスです。

(8) ゼミ室の使用

ゼミ室の鍵を借りるときは、学生証を必ず社会科学系経営学務係に提出してください。鍵は学生証と引き換えで貸し出します。なお、鍵の持ち出しあるいは返却する際には、窓口を用意されている「貸出簿」に必要事項を記入してください。

(9) 進路調査票の提出（4年次生）

4年次生は、卒業論文提出時に、「進路調査票」（社会科学系経営学務係にて配布）を提出してください。なお、この「進路調査票」は経営学部での進路状況調査及び卒業生名簿作成のために使用するものです。

(10) 住所・勤務等届の提出（夜間主コースのみ）

夜間主コースの学生は、年度当初のオリエンテーション時に配布する「住所・勤務等届」を期日までに社会科学系経営学務係窓口へ提出してください。

(11) 駐車許可証交付（夜間主コースのみ）

夜間主コースの学生は、次のいずれかに該当するものについては、学部審議の上、車での通学を許可し駐車許可証を交付します。

- ① 勤務の都合上、車を使用しなければ講義開始時刻に間に合わない。
- ② 自宅が遠く、授業終了後の帰宅の際に交通機関がなくなるため、車を使用しないと帰宅できない。
- ③ 身体に障害があり、車を使用しないと通学が困難である（この場合は、昼間主コースの学生を含む）。

申請書類の配布及び受付は、毎年4月上旬から中旬に行います。日程等の詳細については別途通知するので掲示に注意してください。

(12) 経営学部コンタクト教員制度（担任教員制度・2013年度以降入学生対象）

経営学部では、特に新入生に対する就学ケアサポートを充実させるために、経営学部コンタクト教員制度（担任制）を設けています。特に新入生は、担任教員と「face to face」の関係を築いてください。

昼間主コース

- | | | |
|--------------|----|----------------------|
| 1年～2年春学期終了まで | …… | 担任教員（教員名は、掲示板に掲示します） |
| 2年秋学期～（ゼミ生） | …… | ゼミ教員 |
| （ゼミ外生） | …… | 教務厚生委員 |

夜間主コース

- | | | |
|----------|----|---------|
| 1年～2年まで | …… | 教務厚生委員 |
| 3年～（ゼミ生） | …… | ゼミ教員 |
| （ゼミ外生） | …… | 教務厚生委員長 |

(13) 留学生支援制度

本学には、留学生の皆さんが充実した学生生活を送ることができるように、留学生のための様々な支援制度があります。

① チューター制度

1年生・2年生の留学生に、原則として日本人学生が1名ずつチューターとしてつき、勉学上、生活上の個別の課外指導を行い、学習効果の向上の手助けをします。

② 日本語・日本事情に関する指導

留学生担当教員の指導のもと、定期的集い、時事問題・日本の習慣など身近な話題についての意見交換を行いながら、日本語による表現能力を養います。なお、日本人学生がゲスト・スピーカーとして参加することもあります。

日程は別途掲示します。（希望者のみの受講で、単位は与えられません）。

③ カウンセリング

留学生担当教員が、勉学上、生活上の個別相談に応じます。相談日（オフィス・アワー）は別途掲示します。

④ 留学生関連事項専門掲示板

留学生関連の連絡事項（奨学金・寮の案内・イベント等）を掲示する専用掲示板がありますので、経営学部の一般学生用掲示板、国際教育センター掲示板と同様に、常時確認するようにしてください。

⑤ 各種イベント

留学生による日本語スピーチコンテストや実地見学旅行等、留学生対象の各種イベントがあります。

(14) その他

- ① 学生に対する通知・諸連絡等は、全て「掲示」により行います。1日1回は必ず学生用掲示板，電子掲示板，端末機を見て確認するよう習慣づけてください。他人まかせではなく，自分の目で確認し，主体的かつ計画的に物事を進められるよう努めてください。

横浜国立大学ホームページの学生情報システムからも，休講・補講等の情報を見ることができます。ただし連絡事項が全て見られるわけではないので注意してください。

大学のホームページ : <http://www.ynu.ac.jp/>

学生情報システム : <http://siss.jmk.ynu.ac.jp/>

- ② 休講・成績確認・試験日程その他学務関係の事項について，電話やEメールでの問い合わせには一切応じません。
- ③ 「横浜国立大学学則」，「横浜国立大学経営学部規則」等は大学ホームページに掲載されています。これらの規則は大学生活に関する重要事項を規定していますので，適宜参照してください。
- ④ 学生に対する個別の連絡等を，Eメールで行うことがありますので，YNUネットアドレスで確認してください。携帯電話や別のメールアドレスを使っている場合は，メールを転送する設定を行ってください。
- また，メールアドレスを変更したときは，必ず転送先を変更してください。

8 横浜国立大学経営学部規則

(平成16年4月1日 規則第701号)

最近改正 平成20年3月14日 規則第25号

第1章 学科、履修コース及び授業

第1条 経営学部（以下「本学部」という。）に経営学科、会計・情報学科、経営システム科学科及び国際経営学科を置く。

第1条の2 前条の各学科における授業は、昼夜開講制とし、各学科に教育上の区分として昼間主コース（主として昼間に授業を行うコースをいう。）及び経営学科に夜間主コース（主として夜間に授業を行うコースをいう。）を置く。

2 学生は、前項に規定する履修コースのいずれかに所属しなければならない。

第2条 本学部の授業科目は、専門基礎科目及び専門科目並びに教養コア科目、情報リテラシー科目、基礎演習科目、外国語科目及び健康スポーツ科目とする。

2 授業は、講義、演習、実験、実習、実技及び研究指導とする。

3 学則第44条の規定に基づき、本学部における授業科目の1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

（1）講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。

（2）実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。

（3）1の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して、本学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

4 授業科目及び履修の方法に関する細目は、別に定める。

第3条 学生は、年度ごとに履修しようとする授業科目を定め、所定期間内に経営学部長（以下「学部長」という。）に届出なければならない。

第4条 学生は、第3年次から研究指導を受けなければならない。ただし、特別の理由があると認められた場合は、この限りでない。

第5条 研究指導を受けない学生は、これに代えて所定の単位数に相当する授業科目を履修しなければならない。

第2章 入 学

第6条 学則第24条の規定による本学部入学者の選考は、学力検査及び出身学校長の調査書に基づいて行う。ただし、必要な場合は面接を行う。

第7条 学則第27条第1項第2号から第7号までの規定による編入学者は、本学部と同等とみなすことができる学部等からの者に限り、前条の規定に準じて別に選考する。

第3章 認 定

第8条 学則第58条に規定する認定は、授業科目試験・別に定めるGPAの基準及び卒業論文試験とする。

第9条 授業科目試験は、履修を届出、かつ授業時数の2分の1以上出席した授業科目について行う。

第10条 授業科目試験は、その授業が終了する学期末に行う。ただし、担当教員が必要と認める場合は、臨時に行うことができる。

第11条 卒業論文試験は、3年を超えて在学し、専門教育科目に関して別に定める単位数以上を修得し、かつGPAが2.0以上である者について行う。ただし、編入学等による者の在学年数については、この限りではない。

第12条 卒業論文試験は、担当の指導教員が行う。ただし、研究指導を受けない学生は、学部長に願い出て特定の教員の審査を受けなければならない。

第13条 授業科目試験の結果は、秀、優、良、可及び不可とし、所定のGP（GradePoint）を与える。

2 卒業論文試験の結果は、秀、優、良、可及び不可とし、可以上を合格とする。

第14条 学則第58条第3項ただし書に規定する者のうち特別の事情があると認められる場合には、授業科目試験及び卒業論文試験を特別な時期に行うことができる。

第4章 科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴講学生、内地留学生及び外国人留学生

第14条の2 学則第64条第1項の規定による科目等履修生として入学を許可されることのできる者は、本学部の選考において特定の授業科目を履修する能力を有すると認められる者とする。

第15条 学則第65条第1項の規定による研究生として入学を許可されることのできる者は、同条第2項に該当する者で本学部の選考において特定の専門事項についての研究能力を有すると認められる者とする。

第16条 学則第66条第1項の規定による聴講生として入学を許可されることのできる者は、同条第2項に規定する者で本学部の選考において特定の授業科目を聴講する能力を有すると認められる者とする。

第17条 科目等履修生、研究生及び聴講生の選考は、第6条の規定を準用する。

第18条 学則第67条の規定による特別聴講学生、同第68条の規定による内地留学生等、同第69条の規定による外国人留学生についての選考は、出願に要する書類の審査及び面接により行う。ただし、必要な場合には、学力検査を課するものとする。

第5章 留 学

第19条 学生が学則第55条の規定に基づき、大学（学部）間協定による留学の許可を受けようとするときは、必要書類を添えて学部長に願い出て、教授会の議を経なければならない。

2 学則第42条第3項の規定は、前項の規定により留学する場合にこれを準用する。

3 前2項に規定するもののほか、留学に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 この規則施行の際、平成16年3月31日に現に本学部に在籍する者については、なお従前の規則のとおりとする。

附 則（平成17年1月13日規則第478号）

この規則は、平成17年1月13日から施行し、平成16年7月8日から適用する。

附 則（平成18年3月9日規則第35号）

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 平成18年3月31日以前に本学部に入学者（以下「在学者」という。）及び平成18年4月1日以後において在学者の属する年次に再入学、編入学及び転入学する者（以下「再入学者等」という。）に係る教養教育科目については、改正後の経営学部規則第2条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3 本学部が必要と認めるときは、在学者及び再入学者等に改正後の経営学部規則第2条の規定に基づき平成18年度以降の入学者（再入学者等を除く。）のために開設される本学部の授業科目を履修させることができる。この場合において、当該授業科目の履修を、改正前の経営学部規則に基づく授業科目の履修とみなし、単位を授与することができる。

附 則（平成19年3月15日規則第16号）

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

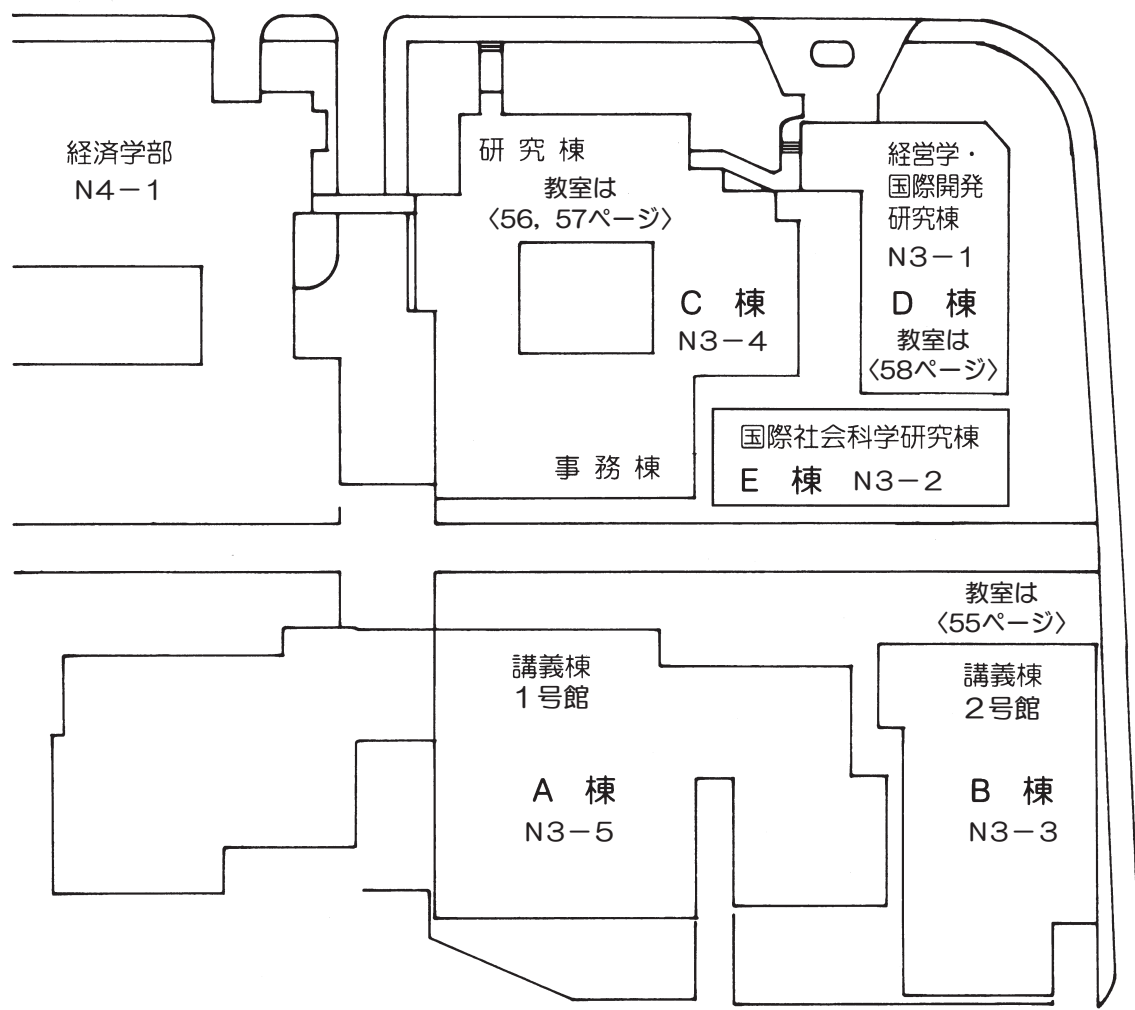
2 平成19年3月31日に現に本学部に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成19年4月1日以後において在学者の属する年次に再入学、編入学及び転入学する者に係る授業科目試験の結果及び卒業論文試験の結果については、改正後の経営学部規則第13条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成20年3月14日規則第25号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

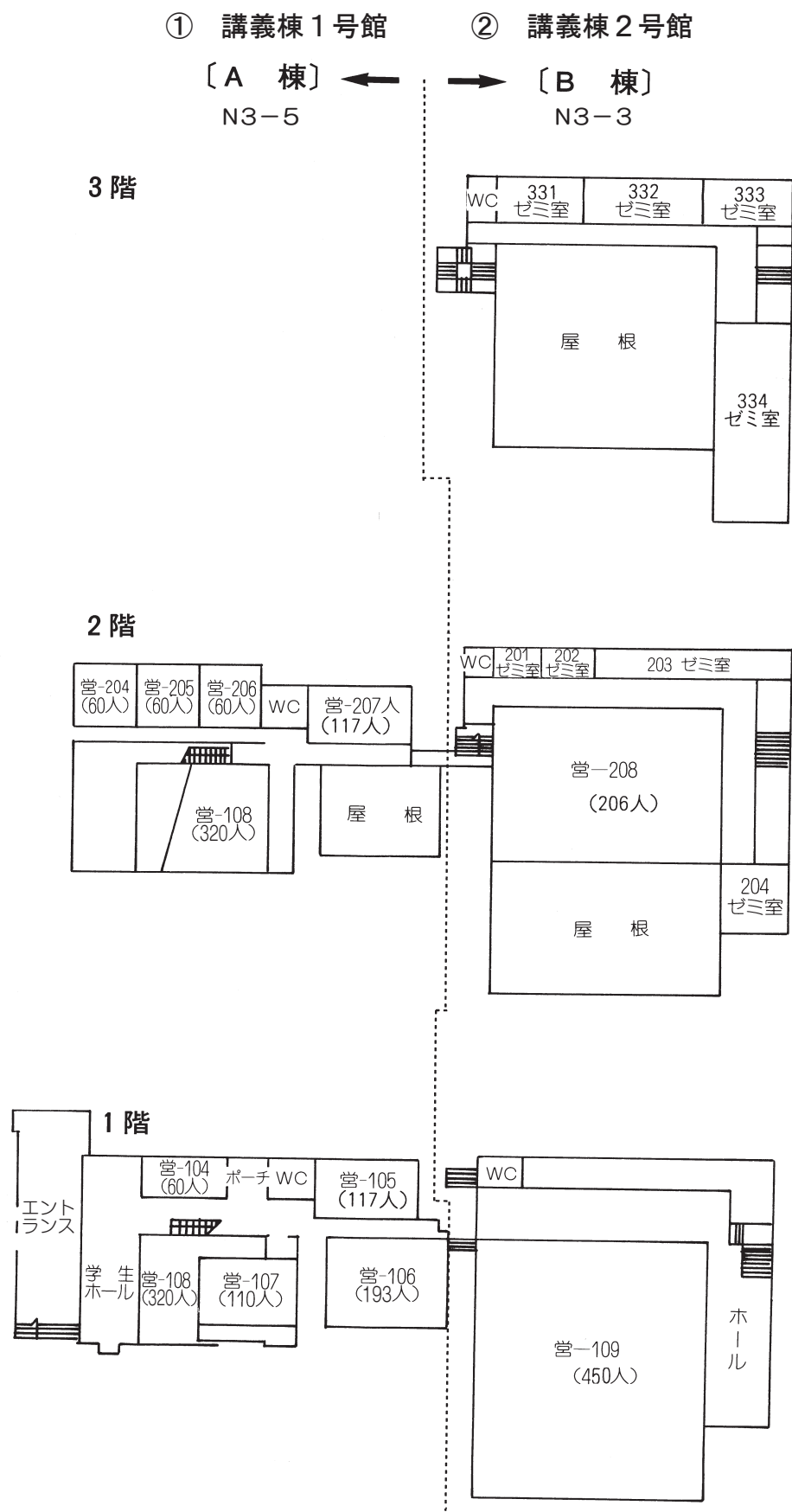
10 経営学部建物及び教室配置図

経営学部建物配置図



経営学部教室配置図

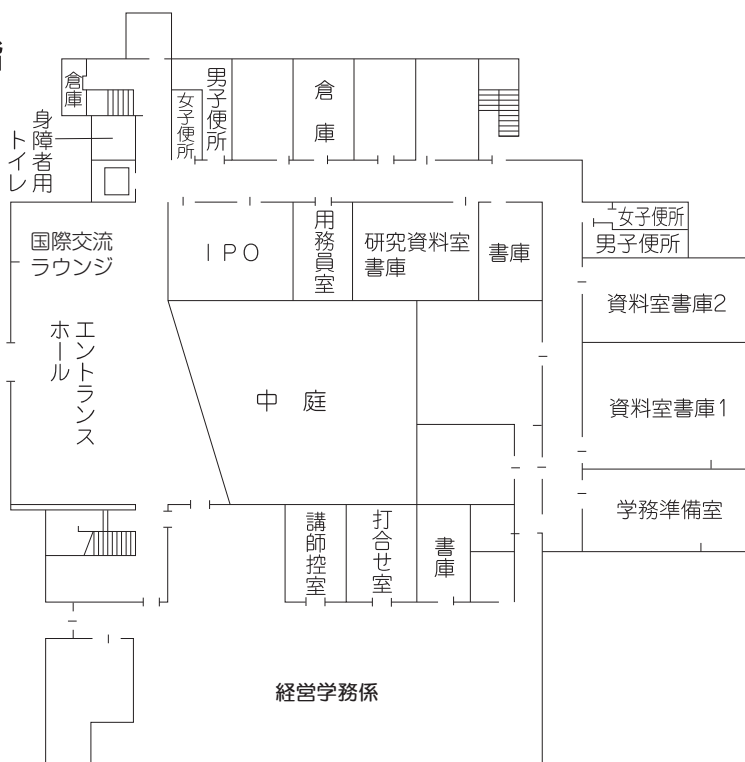
(1) 経営学部講義棟 (1～3階)



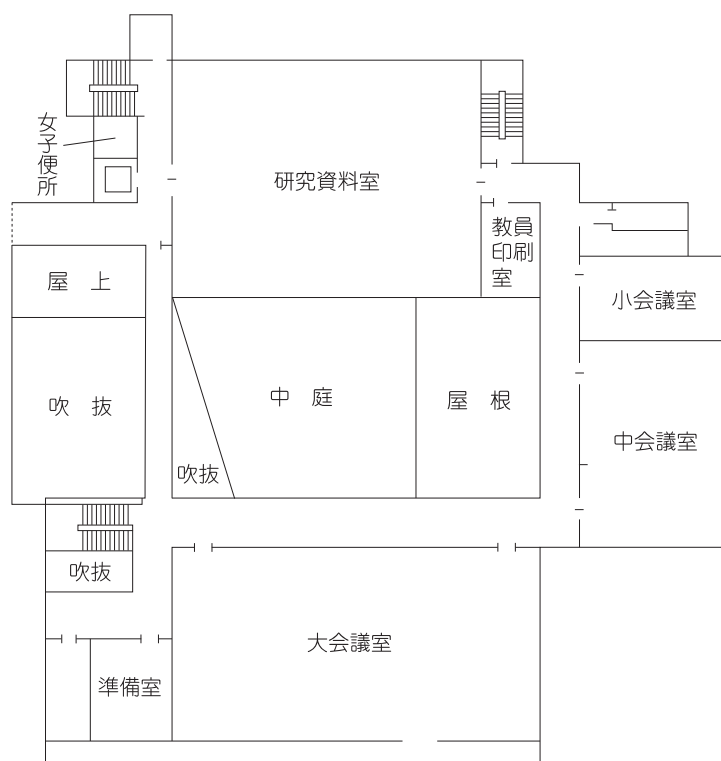
(2) 経営学部事務室等〔C棟〕(1～5階)

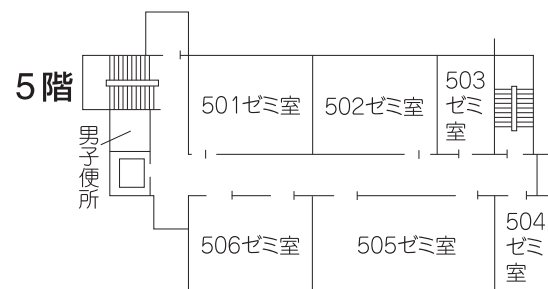
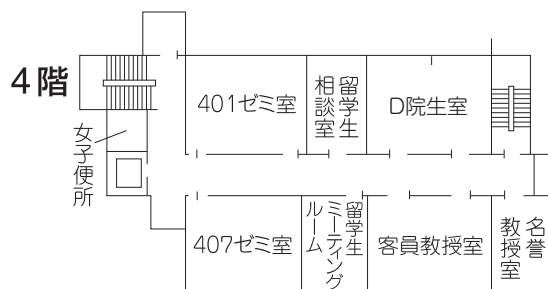
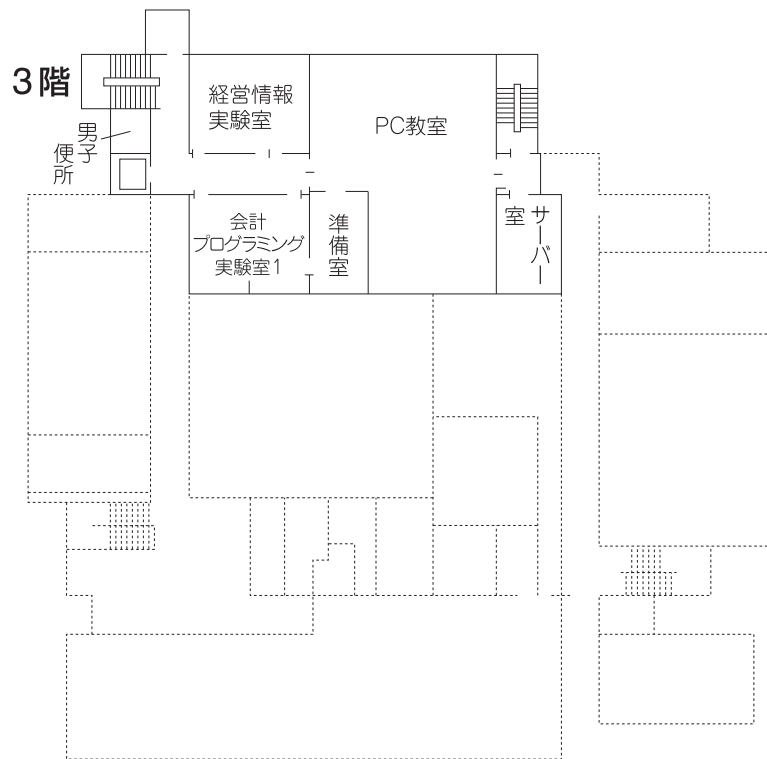
N3-4

1階



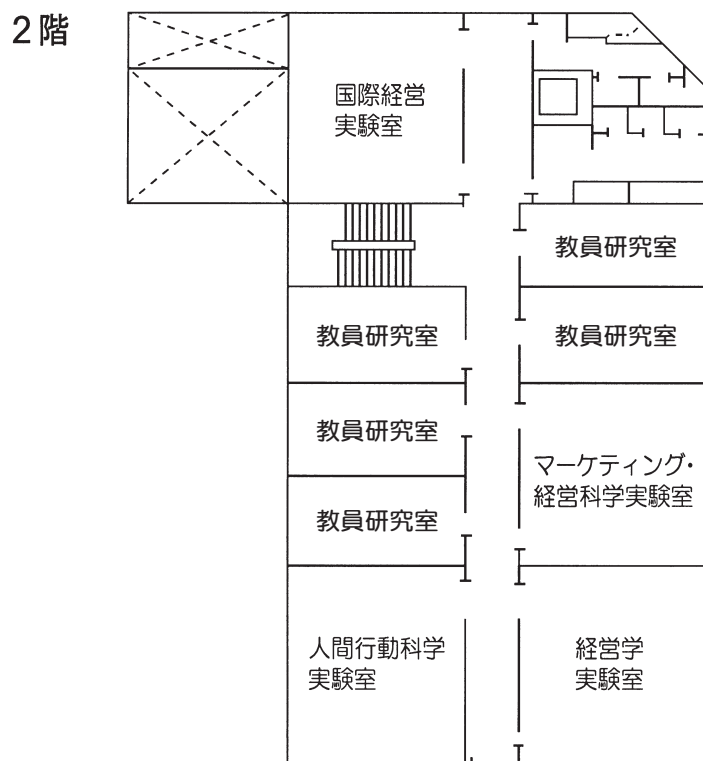
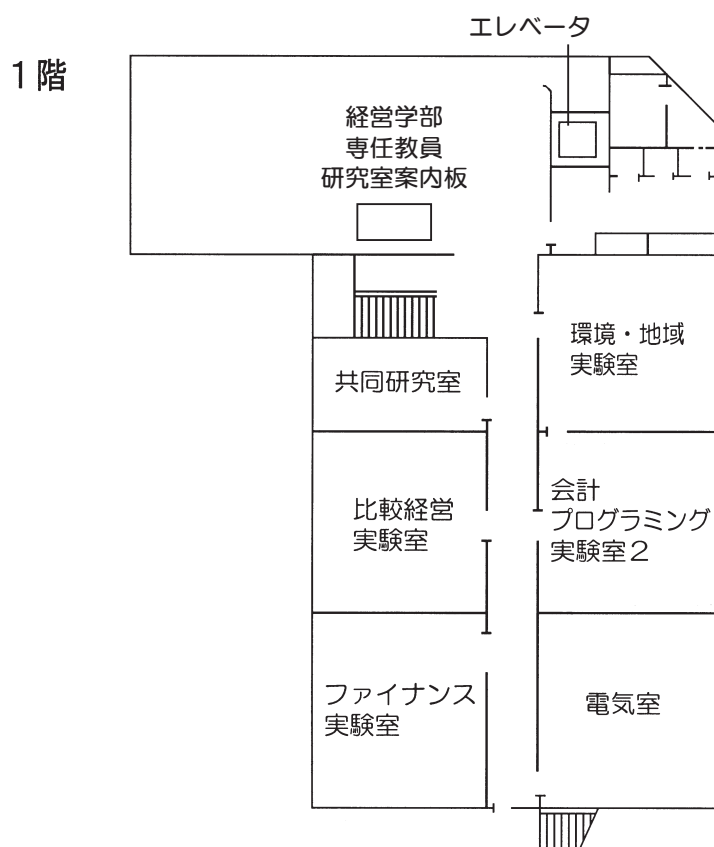
2階





(3) 経営学・国際開発研究棟〔D棟〕(1～2階)

N3-1



※「情報教育教室」「情報教育実習室」は
経営学研究棟〔D棟〕3階

※「研究推進室」は経営学研究棟〔D棟〕
4階

2011年度以降入学生用（昼間主コース）
（2010年度以前入学生は経営学務係で配布する卒業要件チェック表を使用してください。）

				チェック欄	修得単位数		
教養コア科目	基礎科目：人文社会系					4単位以上	
	基礎科目：自然科学系	経営学科	統計学Ⅰ－A 統計学Ⅱ－A 微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ			4単位以上	
		会計・情報学科	統計学Ⅰ－A 統計学Ⅱ－A 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ				
		経営システム科学科	統計学Ⅰ－A 統計学Ⅱ－A 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ				
		国際経営学科	統計学Ⅰ－A 統計学Ⅱ－A				
	現代科目					2単位以上	
	総合科目					2単位以上	
基礎演習科目（選択科目）						2単位	
教養コア科目＋基礎演習科目（選択科目）						24単位以上	
外国語科目	英語 ※英語Advancedでの代替可		英語実習1S 英語実習1W 英語実習1LR春学期 英語実習1LR秋学期 英語実習2SW 英語実習2LR 英語演習			8単位	
	英語以外の外国語 ※各言語によって要件 がある場合があります。 不安な方は経営学務係 までご相談ください。	1か国語の場合	実習1 実習2 実習1 実習2 演習			6単位	
		2か国語の場合	実習1 実習2 実習1 実習2 実習1 実習2				
	健康スポーツ科目※単位に上限がありますので注意してください						2単位まで
合計1						38単位以上	

			チェック欄	修得単位数			
学部必修科目		簿記原理Ⅰ			6単位		
		簿記原理Ⅱ					
		経営の英語					
学科必修科目	経営学科	経営学総論Ⅰ			4単位		
		経営学総論Ⅱ					
	会計・情報学科	会計学原理Ⅰ			8単位		
		会計学原理Ⅱ					
		管理会計論Ⅰ					
		管理会計論Ⅱ					
	経営システム科学科	経営科学総論			6単位		
		ビジネス・エコノミクス					
経営情報論ⅠA							
国際経営学科	経営学総論Ⅰ	8単位					
	経営学総論Ⅱ						
	国際経営論Ⅰ						
	比較経営論Ⅰ						
選択必修科目	経営学科				12単位以上		
	会計・情報学科				12単位以上		
	経営システム科学科				12単位以上		
	国際経営学科				8単位以上		
法律関係授業科目		経営学部昼間主コース開講科目				6単位以上※	
自由・特殊科目※夜間主開講科目について単位に上限があります					夜間主開講科目は30単位まで		
ゼミナール	ゼミナールⅠ				4単位		
	ゼミナールⅡ				4単位		
その他	経済学部開講法律関係科目※				6単位まで※		30単位 まで※
	経済学部専門教育科目※				8単位まで		
	国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目※				8単位まで		
	横浜市内大学間単位互換(放送大学含む)※				8単位まで		
	国際交流科目※				8単位まで		
合計2					76単位以上		
合計1 + 合計2					128単位以上		

〔経済学部開講法律関係科目〕

この科目の単位は、6単位まで**法律関係授業科目**として算入できます。6単位を超えて修得した単位は、経済学部専門教育科目として算入することが出来ます。

ただし、経済学部専門教育科目は上限が設定されていますので、8単位を超えて算入することが出来ません。

(例)法律関係科目　8単位　＋　専門教育科目　6単位　→　法律関係科目として6単位、専門教育科目として8単位を卒業に必要な単位数に算入できる

(例)法律関係科目　8単位　＋　専門教育科目　8単位　→　法律関係科目として6単位、専門教育科目として8単位を卒業に必要な単位数に算入し、法律関係科目で修得した残り2単位は卒業要件外となる。

〔その他科目について〕

経済学部開講法律関係科目　＋　経済学部専門教育科目　＋　国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目　＋　横浜市内大学間単位互換　＋　国際交流科目
≤　30単位

上限が設定されていますので、合計で30単位を超えて卒業に必要な単位数に算入することが出来ませんのでご注意ください。

2011年度以降入学生用（夜間主コース）
（2010年度以前入学生は経営学務係で配布する卒業要件チェック表を使用してください。）

チェック欄						修得単位数	
教養科目	夜間主教養科目	数学Ⅰ			24単位以上		
		数学Ⅱ					
		統計学Ⅰ－B					
		統計学Ⅱ－B					
	教養教育科目(昼間主コース)(選択科目)						
外国語科目	英語	英語1-1-Ⅰ			8単位		
		英語1-1-Ⅱ					
		英語1-2-Ⅰ					
		英語1-2-Ⅱ					
		英語2-1-Ⅰ					
		英語2-1-Ⅱ					
		英語2-2-Ⅰ					
		英語2-2-Ⅱ					
	英語以外の外国語	1-Ⅰ			4単位		
		1-Ⅱ					
		2-Ⅰ					
		2-Ⅱ					
健康スポーツ科目(選択科目)					2単位まで		
合計1					36単位以上		

※教養教育科目(昼間主コース)とは、インターンシップ前提科目(「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」「ベンチャーから学ぶマネジメント」、地域交流科目を指します。
※健康スポーツ科目は2006年度より夜間主コースでは開設しませんが、昼間主コースの科目を履修し、修得した単位を2単位まで卒業資格に関わる単位数に算入することが出来ます。

チェック欄 修得単位数					
基本科目群				8単位以上	
夜間主自由・特殊科目					
昼間主自由・特殊科目(選択科目)				30単位 まで	
法律関係授業科目	経営学部夜間主コース開講科目			6単位	
ゼミナール	ゼミナールⅠ			4単位	
	ゼミナールⅡ			4単位	
その他	経済学部専門教育科目※			8単位 まで	30単位 まで ※
	国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目※			8単位 まで	
	横浜市内大学間単位互換(放送大学含む)※			8単位 まで	
	国際交流科目※			8単位 まで	
合計2				76単位以上	
合計1 + 合計2				124単位以上	

[その他科目について]

経済学部専門教育科目 + 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目 + 横浜市内大学間単位互換 + 国際交流科目 ≤ 30単位という上限が設定されています。合計で30単位を超えて卒業に必要な単位数に算入することが出来ませんのでご注意ください。



YOKOHAMA NATIONAL UNIVERSITY
COLLEGE OF BUSINESS ADMINISTRATION

2016